

少しも勇氣力のない事を感じるのには、是は一の恩寵であります。左様な場合には耶蘇様のみに依靠つて「斧既に樹の根に置くべき……(マテオ三ノ一〇)」の時であります……若し過失に陥つる事があれば、一の愛の業を爲せば之を償ふに餘りあります。さすれば耶蘇様は微笑まれつ、知らぬ顔をし乍ら密に我等を救ひ助けて下さいます。耶蘇様が罪人の爲に流された御涙は、私等の弱く貧しき愛によつて拭ふ事が出来ます。愛は何事をも行ふことが出来、愛する者には最も出来難い事でも容易に見えます。貴姉がよく御存知の通り、聖主は私等の行爲に就ては、其偉大なる事とか、困難な事よりも、之を行ふ愛の方を御覽になるのであります。然らば何を悲まれるのですか。

貴姉は「完徳に達したい、聖人と成りたい、然し之は餘り過分の望みではないか」と私にお尋ねになりますが、姉上様よ、私は特別に深く天主様に愛せられた靈魂の完徳に達せよといふばかりではなく「汝の天父の完全に在ます如く、汝も亦完全なれ(マテオ五ノ一)と申しませう。如斯貴姉の望み……私等の望みは過分の望みや空想ではありません。何となれば是は耶蘇様よりの一の御命令でありますから……」

三 十字架の價値

(千八百八十九年一月)

親愛なる小さき姉セリナ様よ、

主耶蘇様は貴姉に、至つて重き一十字架を與へなされた(父の病氣)が 貴姉は力を落さず此十字架を負ふ事が出来ないのを見て喜んで居られます。あ、我等の親愛なる御方は、彼のカルワリオ山の途すがら、三度までも倒れなされたではありませんか。何故私等は此天配なる主に倣はないのでせうか。

呼鳴主の御恩恵は如何にも難有い事よ。主は我等に斯の如くの大なる苦み悲みを與へて下さるのは、あ、如何許り我等を深く愛して下さるのでせうぞ。主に感謝する爲には永遠も猶足りません。主は大聖人にお與へなされた程に多くの恩寵を、我等にも溢れる程に與へて下さいました。我等の靈魂上に就て如何なる御愛憐の攝理があるのでせうか、此神祕は唯本國に行つてのみ、乃ち「主は我等の涙を悉く拭ふ(黙示録)」て下さる日のみに於て明かになりませう。

唯今では地上に於て望むべきものは一つもありません。涼しく爽かな曉が過去つて唯苦みの夕のみ残つて居ります。オー如何に羨敷運命ではありませんか。天國に於て諸天使等は私等の幸福を羨ましく思ひませう。私は近頃次の感すべき言葉を想出しました「天命に安んずる事と天主の聖旨とは、丁度一致と單一との兩者の間に於ける徑庭と同一區別がある、一致といふものは二者であるが單一には唯一のみである」と、然らば我々が此世に居る時からでも、天主と單一なものとなりたく、そして之を遂げる爲には唯天命に安んずる許でなく、喜び進んで十字架を抱締めませう。

四 經營すべき金山苦辱の道

(千八百八十九年二月廿八日)

我親愛なる小さき姉上様

御主耶蘇様は寔に私等の爲に、「血の夫(四ノ二六)」であります。彼は我心臓を残らず御自分の爲に望んで居られます。姉上様の仰せられる通り私等は主の望み給ふものを献げるには如何しても高い代價を拂はねばなりません。之を爲すのは如何にも歎ばしく、

又力なげに我十字架を負ふて行くのは、實に幸ひの極みではありませんか……。

姉上様、我等は聖主から贈つて頂いた此十字架に就て、嘆くやうな事があつてはなりません。我等を斯の如くに款待して下さるやうになつた、其限りなき主の愛の度は御察し申す事が出来ない位であります。父は今左様にお苦みなさるのを見ると、彼は天主様に如何にも深く愛せられて居ると申さねばなりません。そして私等を父と俱に苦辱に遣はせて下さるのを大に喜ばねばなりません。私は苦辱の道は人をして聖とならしめる唯一の道である、といふ事を能く知つて居ります。又此度の試練は、丁度經營すべき金山の如きものでありますから、小砂の一粒なる私は、勇氣なく能力なくとも今より其事業に手を着けやうと思ひます、無能なる私にすら此事業を容易くならしめて下さるのでありますから、私は愛の爲に働かうと思ひます。愛の殉教は是から初まります。親愛なる姉上様よ、さらば共に俱に戰場に赴きませう。そして人々の靈魂を救ふ爲に我等の苦辱を耶蘇様に献げませう。

五 苦と弱きことを甘んぜよ

(千八百八十九年三月十二日)

……姉上様よ、私は此地上の事を忘れる必要を感じます。此地上に於ける萬事は私に疲勞を覺わさせ、私に残るは唯「苦み」喜びのみであります。そして此感じられない歡喜は、凡ての歡喜に優れて居ります。人世は過去つて永遠は近づき、間もなく我等が神の生命其ものを配けて頂き、苦味の泉に飲んで後、甘味の泉に移る事が出来ませう。

左様、「此世の態は過行き(七ノ三一)」やがて我等は新しき蒼空を見、やがて一層明かな太陽は空色の大海と限りなき宇宙を照すであります。其時我等は最早流島に遭ふた鳥の如きものではなく、皆過去つて了ふたであらう。然らば我等の天配と偕に涯りなき岸の無き海洋の上を航行ませう。詩篇に「我琴はバビロンの河の畔にある、柳に懸けたり(二三六)」とあります。然し我等が救ひ上げられた曉には、如何なる美しく立派な音楽を演奏ませうか?、如何なる歡び樂みを以て、我等の樂器の總ての糸を響かせませうか?……。然し今日では、「我等はシオンを想出で、涙を流し、我等外邦に於ていかで

主の歌をうたはんや(詩篇一三六)と、我が歌は苦みの歌であります。耶穌様は至つて苦き杯を我等の前に差出されました。我等は唇を其杯から避ける事が出来ませんから、甘んじて其苦を嘗めませう。此甘んじてと謂ふのは喜びといふ意でもなく、喜びの少しの感じといふ意味でもありません。甘んじて苦まうと思へば、聖主が我等に望み給ふ所を我等も同じく望むといふ事丈で充分であります。

苦の伴はない愛を求めやうと爲すのは全く駄目であります。我人性は何しても脱ぎ棄てる事が出来ませんが、之は全く無意味無益のものではなく、却て私等は、其人性のお蔭で大なる寶を得る事が出来ます。聖主耶穌様はわざ／＼此人性を着ける爲に、此世に降臨なさつた程貴重なものであります、我々が快く勇ましく耐へ忍ぶことを望んで居ります。此苦みに堪えずして決して倒れたくないのであります。然し之は大なる考違ひで、私は時々刻々倒れるといふ事があつても少しも厭ひません。斯く刻々に倒れるのは即ち自分の弱き事を自ら覺るやうになりますから、それが爲に大なる利益を得るのであります。

主よ、主は我を抱き支へて下さらない時の私の爲し得る所を能く御存知で即ち何も出来ないであります。主は私獨の力に倚らせるならば私が大地に倒れるのを御覽してお喜びになられるからであります。さらば私は何故にそれを嘆き悲みませうぞ、若し汝の眼に自分の卑しく弱き事を覺るその辛さを甘んじて忍ぶならば、之は丁度汝の心を耶穌様の安樂な住家として献げるやうなものであります。無論其場合には汝自身は家から放逐されたやうになるから苦むであります。然し恐れるには及びません。汝は貧しくなればなる程耶穌様に深く愛せられますから……、耶穌様は汝が白晝美しく咲き綻びて居る花園の中を通るよりも、寂しい暗夜の途を通り石に躓くのを御覽になる方を御歡びになる、といふ事を私は能く知つて居ります。何となれば花園の中を通る時には汝の歩みを遅くならしめる虞れがありますから……。

六 只主を愛し靈魂を救ふ事のみ

(千八百八十九年七月十四日)

親愛なる姉上様、

私の靈魂は貴姉を離れません。此地上に生活するのは如何にも辛くありますが、明日
 ……否一時経つと永遠の港に着くのでありませう。其時には何を観るでありませうぞ！
 此終なき生命は如何に歡ばしい事でありませうぞ！我靈魂は自分によつて活くるのでは
 なく、主は我靈魂の靈魂となられるのでありませう、是は到底量り曉る事の出来ない玄
 義であります。聖書にも「人の眼は未だ造られない光（天主）を視ず、耳は未だ云ふに
 言はれぬ天の音楽を聴かず。心は未だ未來に於て我等の爲に備へられたる福樂を悟る事
 が出来ない（イザヤ書）」と。然し程なく之を皆見聞する時機が近づいて來ます、左様若し
 熱愛を以て耶穌様を愛するならば……。

主は或靈魂の中に御自分の愛の所業を行ひ給ふには多くの歲月が必要なく、その聖心
 から出る愛の一光線のみを以て、永遠に其靈魂を開き咲かす事が暖く間に出來ます、姉
 上様よ、残る僅かの年月の間靈魂を救ひませう。天配なる耶穌様は我等に求めなされる事
 は靈魂を救ふ事……殊に司祭の靈魂を御求めになります。斯様な事を貴姉に告げさせる
 者は主耶穌様であります。

此地上に於て必要なる事は唯一つあります。之は即ち耶穌様を愛し、耶穌様を愛せさ
 せる爲に靈魂等を救うといふ事でありませう。私等は主を歡ばせ奉る爲に、善徳を行ふ
 べき些細な機會を失はぬやうに能く注意し、何事も主の御望みを拒まぬやうに爲ねばな
 りませぬ。主は非常に愛に渴望して居られます。

私等が主に特に愛せられる百合の花であります。耶穌様は我等の靈魂の中に居られ、
 其處に王の如くに在まし、此王位の榮光を我等に配ち能へて下さいます。そして其神聖
 なる御血を以て、我等の花弁に注いで之を濡はされ、主の茨の冠の棘を以て我花を破
 つて咲かせ、我等の愛の香を放たしめて下さいます。

七 ベロニカに倣へ

(千八百八十九年十月廿二日)

親愛なる姉上様、
 聖き面影の聖繪を贈ります。此聖繪に私の靈魂の眞の小さき姉妹なる貴女に適當して
 居ると思ひます……、貴女はベロニカに倣ひなさん事を……特に親愛する御方耶穌様

の御血御涙を拭ひなさらん事を……彼に靈魂をイエズス様に與へなさらん事を……又兵士の中即ち世間の中央を通つて耶蘇様の御許に達する爲めに途を開かれん事を……貴姉が後日天國に於て、貴姉の天配なる耶蘇様に差上げた此奇しき飲物の價値をお曉りになつた時、又貴姉は以前渴きに渴いて居られた耶蘇様の御唇から、愛の御言葉乃ち貴姉に仰せられる終りなき感謝の言を聽かれた時の、貴姉の歡び幸福は如何ばかりでありませうぞ。

親愛なる小さきベロニカ様よ、多分明日も耶蘇様は御自分の渴きを癒す爲め、貴姉に新しい代つた飲物(犠牲)を請求せられるでありませう、然らば「いざ我等も往きて彼と共に死にませう(ヨハネ一六)」……。

八 イザヤ書中の一句

(千八百九十年七月十八日)

我親愛なる小さき姉上様、

私は今貴女に慰めを與ふる爲め、豫言者イザヤの書中の或句を送ります。御覽なさい

太古の事でありませんが、此豫言者の靈魂は我等の靈魂の如く、聖なる面影の隠れたる優美の中に沈んで居られました。最早其時から數十世紀も経ちました。あゝ時間といふのは如何なるものでありませうか……、時間はたゞ夢の如く蜃氣樓の如きものであります。天主様は最早我等が天國の榮光を享けて居るかのやうに見、又我等が永遠の福樂を持つて居るかのやうに見て御歡びになります。私は左様な事を想ふのは如何にも我靈魂の爲になります。これを思ふと何故天主様が我等を苦に逢ふをも許し玉ふかといふ事を能く悟ります。

「汝の服装は何故に赤く、汝の衣は何故に酒搾を踏む者に似て居るか。我はひとりにて酒搾を踏み、諸々の人の中に誰も我手助けを爲す者なし(イザヤ書六)」

(是は救世主耶蘇基督が後に受くべき苦難に就ての豫言である)

私等の深く愛する御方は、唯獨で酒搾を踏まれ、私に對しての深き愛を表はされたのでありますから、私も血に染つた衣を着ける事を斷らず、耶蘇様の御渴きを止める爲に愛を盡し甘んじて苦みを迎へませう。さすれば主は「諸々の人の中に誰も我手助けを爲す

者なし」と仰せられますまい、私等は手助を爲す（共に苦む）ため其處に居りますか
ら……。

耶穌様は今日も昔の如く、見棄られ蔑視に爲られて居ります。聖心に最も苦しく感ぜ
られる事は多く人々から蔑視にせられることであります。

私等の父も今大に苦みに逢うて居られます。是等の事を思ふと私の胸は張裂けるばか
りになります。然し耶穌様は、御父天主様から責められ、打たれ、苦められたやうに見
做された」のでありますから私等は什麼して之を咥く事が出来ませうぞ！。さらば私等
は此大なる苦みの中に於て、己を全く棄て、司祭等の爲に祈りませう。司祭等に人々の
改心させる爲特別の恩寵が必要でありますから……私等の生命は彼等司祭等の爲に犠牲
とならん事を望みます。聖主は私等兩人に望み給ふ所のものは、即ち是であるといふ事
を、漸次と私に曉させて下さるのであります。

九 心の痛み

（千八百九十年九月二十三日）「着衣式の前日」

姉上様、

私の靈魂の中に於ける今の苦みの態を如何にして、貴姉に語る事が出来ませうか。あ
、此傷！此痛み！。然し此は私の靈魂を愛して下さる御方の手によつて出来た事である
といふことを、私はよく曉つて居ります……（中略）

私は親愛する我父に如何許逢ひたかつたといふ事を、貴姉が能く御存知でありませう、
然し父は私の此大祝日（着衣式）に列席する事が出来ないのは、全く天主様の深き聖慮
であつて、主は私の愛を試さんが爲に斯く計うて下さつたのであります。又耶穌様は一
層深く私と一致したい聖慮でありますから、私が孤子となる事を望まれ、私に單獨とな
らしめて後に御自分に合せたい聖慮であります。又此逐調の地に於て私より取上げられ
た正しき喜びは天國に於て私に返したい聖慮であります。

私の今日の誘惑は實に申上げ兼ねる程の悲哀であります。喜びが私等の前に持出られ

たので、手を伸べさへすれば直に得られるのでありますが、終に此待兼ねて居つた喜びを得る事が出来ませんでした。斯く私を試すものは人ではなく耶蘇様御自身であります。姉上様よ、貴姉の妹テレジアの心を深く察して下さい、そして姉妹共に此茨の棘(苦み)を甘んじて受けませう。明日の祝日は私等兩人の爲には涙の祝ひであります。……然し耶蘇様は却て之れが爲に、大に慰めをお受けになるであらうと感じます……。

一〇 萬事過ぎ去る (千八百九十年十月十四日)

親愛なる姉上様

私は貴姉の御心痛を深く御察し申します。そして之を配けて頂きます。若し涙の最中耶蘇様が私の靈魂に與へて下さつた平安を、貴姉に配ける事が出来るならば……、然し御安心なさい。萬事過ぎ去つて了ひます。以前の我命は過去つたから、死も亦過去つて了ひ、其後は眞正の生命を、幾千萬年否永遠に保つてあります。それ迄は我心を、愛すべき救世主がお休みになるやうな愉快な花園として献げねばなりません。そして其花

園には清淨潔白な百合の花ばかりを數多植ゑませう……。

一一 地上の天使等 (千八百九十一年四月廿六日)

親愛なる姉上様

三年前には我等姉妹の靈魂は、まだ碎かれて居らず、地上に幸福は我等に微笑をして居りました。が今日では耶蘇様は我等を御覽になつたので其御目庇は我等に取つて涙の海と變じました。然し復此涙の海は同時に恩寵と愛の大海となつたのであります。主は我等が云ふに言はれぬ愛を以て愛して居つた父親を奪ひ(父が病氣の爲起居)なされたのは、他の譯ではなく「天に在ます我等の父よ」といふ言句を我々が眞實に天主様に申上げられるやうに爲せたいといふ聖慮であつたのであります。あ、此聖なる言句は、如何に厚き慰めを我等に與へ、如何に廣大なる宇宙を我等の眼に弘げなさるか！

私の親愛する姉上様よ！、私の幼ない時代に種々の質問をして下さつた貴姉が……。

「天主様が何故に我を天使に造つて下さらなかつたか」といふ質問を、何故一度も爲ら

れなかつたのであらうかと、私は不審に思うて居ります、私は今假に其質問にお答へ致
しませう。「即ち主が天国に於て、主の御側に侍る者を持つてお居でになるが如く、此下
界に於ても殉教者なる天使、宣教師なる天使をお好みになります、それで主は貴姉を在
天の天使に造つて下さらなかつた理由は、貴姉を此地上の天使とならしめ、御自分の愛
の爲に貴姉を苦ませたいといふ深き聖慮があるからであります。

あゝ親愛なる姉上様よ、最早間もなく影は消え失せるのであります。冬の苦しい霜に
は永遠の太陽の光線が變るであります。今少時せば我等は我故郷に歸り、我幼年の時
の樂み、日曜の夜の團樂、家族の親密な愛情が永遠に我等に取返されるのであります。

二三 「目を翹げて見よ……」……祈禱によりての布教

(千八百九十二年八月十五日)

親愛なる小なき姉上様、

私が今日貴姉に手紙を差上げる事に就て、聖主に對する幾許かの暇を盜まねばならぬ
のであります。然し耶蘇様は之が爲にお怒りになりますまい、貴姉と互に語る事は即ち

耶蘇様との事でありますから……。

姉上様よ、貴姉の住んで居られる廣き平野優美なる景色は、大に貴姉の靈魂を向上さ
せるであります。私は貴姉の如く立派な景色を見ませんが、十字架の聖ヨハネが歌ひ
ました如く、私は「我が親愛なる御方の中に於て、緑の山や閑靜にして茂つて居る谿谷
を眺めます。

先頃私は靈魂等を救ひ助ける爲に、如何なる事を爲し始むれば宜いかと考へて居りま
した所が、聖書の或句が突然私の心を強く照しました。即ち往古耶蘇様は熟した麥畑を
弟子等に御示しになりながら、「汝等目を翹げて田畑を見よ。最早穫取るべく白みたり。
(ヨハネ)」と。また「收穫は多けれども働く者は少し、故に働く者を其收穫に遣はさん
事を、收穫の主(天父)に願へよ(マテオ)」と。是は如何にも玄妙なる神祕であります
耶蘇様は全能の御方で、被造物は造物主のものではありませんか。それに如何して耶蘇
様は、「働く者を其收穫に遣はさん事を收穫の主に願へよ」と仰せられるまでに深く謙遜
りなさるのでせうか……、あゝ、是は私に對しての愛が測り知る事が出来ない程に深く、

私等を其愛に興からせず、何をも爲せたくない程に行届いた慈悲を垂れて下さるからであります。

萬物の創造主が、御自分の御血の値で贖はれた多數の靈魂を救ふ爲に、一人の小さく衰れた靈魂の祈禱を待つてお居でになります。

然らば私等の天職は、御父の田畑の中で穫られる爲に行くのではなく、また耶蘇様が私等に向つて眼を俯げて田畑の中に穫られよと仰せられるではありません。私等の任命は之よりも高尚なものであります。聖主の御言に「目を翹げて……見よ……」と即ち天國に於て如何程多くの空席があるかを見よ、汝等が之を満たす義務がある、汝等は山の上に於て祈つて居るモイセスの如くである、働く人々を願へよ。然らば我は彼等を遣はさん、彼等を遣す爲に、唯汝等の衷心より出づる一の祈禱一の希望のみを待つて居ることゝあります。

さらば祈禱によりての布教は言葉の布教よりも勝れて居るではありませんか。數千の靈魂を救ふ所の宣教師を作るのは私等にとりての天職であります、さらば私等は此救は

れた多くの人々の母となりませう。彼の司祭達を如何して羨望ませうぞ……

一三 聖母マリアよりも幸福なる者……「樹より降りよ」

親愛なる姉上様、

今日私等兩人の愛情は、小兒時代とは大に變つて、同じ思念同じ感情を以て互に一致するやうになりました。耶蘇様は私等を俱に引寄せて下さつたので、貴姉も最早主の有でありますか。斯くして主は世間を私等の脚下に置いて下さいました、私等は昔のヤケオの如く、耶蘇様を見る爲に樹の上に登りました、此奇妙な樹のお蔭で私等は凡てのもの、上に高められましたので、此樹の上から「凡てのものは我所有であり、總てのもの我爲である、地も我所有である、天も我所有である、天主様も我所有なれば、主の御母も亦我所有である……」(十字架の聖言)と申す事が出来ませう。

私は天主の御母なる聖母マリアに對して懐いて居る無邪氣な想へを貴姉に打明けませう、私は聖母に向つて時々斯く申上げるのです「私の深く愛し奉つる聖母マリアよ！」

私は聖母よりも幸福な者であります。何となれば聖母は私の母であります。聖母は私の如くすることの出来る一人の聖母もありませんから……無論聖母は耶蘇様の御母であります、が聖母は耶蘇様を私に與へて下さいました。そして主も亦十字架に於て母として聖母を私に與へて下さいました。それ故私等は聖母よりも幸福な者であります、昔聖母は謙遜にも天主の御母の小さき下婢とならん事を望まれました、然し數ならぬ小さき被造物なる私は、聖母の下婢でなくして聖母の子であります、聖母は耶蘇様の御母にして復た私の慈母であります」と。

姉上様、私等が耶蘇様に高められた事は如何にも感すべき事、曩に申上げた奇妙な樹の上に登らせて、如何にも深き妙理を曉らせて下さいました、が唯今は如何なる學問を教へて下さるのでありませうか、否最早何かも教へて下さつたではありませんか、次の聖言に耳を傾けなさい「急ぎ下りよ、今日我汝の家に宿らざるべからず(ルカ一)」と。

あ、如何にせん……主は「下りよ」と仰せらる……然らば私等は何處に往きませうか。昔ユデア人は耶蘇様に「師よ、何處に住み給ふぞ」とお尋した所が、耶蘇様は「狐に穴

あり、空の鳥に巢あり、然れど我は枕する處なし(ルカ九)」と御答になりました。さらば私等が耶蘇様の住所となる爲に、其處まで降りねばなりません、即ち「枕する所が無い」所までに貧しき者とならねばなりません、私は此事を曉る恩恵を默想會の時に享けました、主は私等の心の中居住することを望んで居られます。無論我等の心は既に被造物に離れて居りますが、然し尙不幸にも我心が自己から離れて居りません。それで主は「降りよ」と命ぜられたのであります。吁私は耶蘇様が私の心を枕としてお休みになる爲めそして御自分の愛が私に辨へられ、私に報いられて居るといふ事を御認めになるようにする爲め、私は極く低い所まで下りませう……。

一四 露の一滴 (八千八百九十三年四月十五日)

親愛なる小さき姉上様、
私は今貴姉の靈魂に對しての耶蘇様の御望みを申し上げます。蘇耶様は花園の花……手入せられた薔薇や牡丹の花……である。と仰せられずして、「我は野の花、谷の百合の花

なり(雜歌)「と仰せられた事を深く憶出しなさい。そして貴姉は何時までも谷の奇しき百合の花弁の中に匿れたる露の一滴たらん事を努めねばなりません。

露の一滴……あ、之よりも一層單純にして一層麗はしきものがありますか?。之を造つたものは雲ではなく、無數の星の光り輝いて居る蒼空の下に生れたもので、唯夜にのみ存するものであります。そして太陽が出て、其強い光線を受けるやうになると、草の先にキラ／＼と光つて居つた美しい寶玉はやがて軽い水蒸氣に變つて了ひます。是は即ち我小さき姉上様の肖像で、貴姉は自分の故郷なる美しい天から降つた露の一滴であります。それ故此人生の暗の中に於ては、野の紅の花弁の中にかくれ、誰の目にも觸れないやうに爲ねばなりません。

あ、幸なる小さき露の一滴よ!、汝を識つて居る者は唯天主のみである、此世の騒がしき河の流れを眺める爲に止まるな、緑の野原を流る、清き小川をも羨ましく思ふな、無論此小川のさ、やきは如何にも優美にして愉快なものであるが、然し其音は人々の耳に響く事もあるのみならず、野の花弁(主)は其小川を含み包む事が出来ない、それで耶

蘇様に近つかうと思へば、極々「小さき者」でなければならぬ、が斯く小さくなつて人々に知られない者になりたいと思ふ者は、あ、如何にも稀である、大小の河川が云ふには「我等は彼の露の一滴よりも有益なものではないか、露の一滴は何の益になるか、恐らく何の價値もなからう、唯少時の間の野の花の脆き花瓣を露はし冷やすに過ない」と。あ、彼等は眞正の野の花を知りません、彼等が若し其れを知るならば……聖主が聖マ ルタに對する誠めを明かに曉るであります。愛すべき耶蘇様は人々の目に立つ程の優れた行爲も、高尚な思想も一向御入用ではありません、耶蘇様が若し高尚な計畫が御入用であれば、此世の卓絶なる學者智者の學識よりも眞に優れて居る天使等を御使ひになりませう、それ故耶蘇様は此下界に於て御求めになるものは智識や才能ではありません、聖主が野の花となつて下さつたのは、即ち御自分が如何程に質樸謙遜を好み給ふかといふ事を我等に示したい聖慮でありまして、谷の百合の花の望むものは唯露の一滴であります、此露の一滴は唯一夜人間の眼に隠れ野の花片に宿つて居りますが、然し夜の幕が開きますと、野の花谷の百合の花が、「義の太陽」となりますので、彼の「逐譎(夜)の友

(馬拉基書 四ノ二)「となつて居つた此謙遜なる小さき者は、愛の水蒸氣となつて太陽と共に高く中天に昇るでありませう、又彼太陽(耶蘇)は其露の一滴(靈魂)の上に、御自分の一光線を止めて下さるでありませう、そして此露の一滴は在天の諸天使諸聖人の前に於て、義の太陽なる主の明かな鏡となつて居る美しい寶玉の如くに、永遠に光り輝くでありませう。

一五 隠れたる寶 (千八百九十三年八月二日)

我親愛する姉上様よ、

貴姉が私に贈られた手紙は大に私を喜ばせました、貴姉の歩む道は洵に十字架の「王道」であります、雅歌の「妻」は床にありて、自分の愛する者に逢ふ事が出来なかつたので、起出で、街衢を歩き廻り、いろいろと尋ね探したが、矢張逢ふ事が出来なかつた：：が城廓を出て後始めて彼に逢ふ事が出来た(二、三、四)と記されてあります。丁度耶蘇様も我等が休んで居る時には、御自分の尊き御顔を我等に示さぬといふ聖慮で、暗闇の

中に御自分を御隠しになりませんが、然し衆人に對しては斯く爲されません、其證據には福音書にも「人民皆憧れて之を聞き居たればなり(ルカ一九)」と。

耶蘇様は神聖なる御言を以て、柔弱なる靈魂を憧らせ、彼等が誘惑や災難に遭ふ時の爲強めやうとして居られました、が然し彼の裁判する者の前で「黙し居給ひし(マテ二二)」時に、彼の忠義なる友の數は至つて尠くなりました、あ、聖主の此「黙し居給ひし」は私の心に、如何にも妙なる音樂の如くに響きます、耶蘇様の御望みは、我等の貧しき者等に對するが如く御自分に慈善をして貰ひたい事でありませう。言を代へて申せば我等の心に全くお委になり、我等が歡び進んで主に施與を爲さぬならば、何物をも受けない聖慮であります。そして若し快く主に献げるならば、縦令如何に小さく如何に微少な施與でも、主の御眼前に於ては至つて貴重なものであります。主は我等から少しの愛でも受けたいと聖慮して絶えず御手を伸し居給ふので、蓋は公審判の日に當つて左の如き云ふに言はれぬ優しき聖言を、我等に下さうといふ深き聖慮があるからであります、乃ち「來れ來れ、我父に祝せられたる者よ……我飢ゑしに汝等食せしめ、我れ渴きしに汝等

飲ましめ、我れ旅人なりしに汝等宿らせ、裸なりしに着せ、病みたりしに訪ひ、監獄に在りしに助けられたればなり(マテオ二五)と。我親愛なるセリナ様よ、私等は大に歡ばねばなりません、我愛する御方に差上げませう、惜氣なく献げませう、然し彼は隠れたる寶物であるといふ事を忘れてなりません。そしてそれを發見し得る靈魂は至つて少數で、隠れたる物を發見さうと爲ば、是非共先づ自己をかくさねばなりません。我等の生活を一の神祕的のものとしたい「基督の模範」の著者も「汝若し汝に利益あることを學び知らんと欲せば、人に知られずして生活し、又無視にせられんことを望むべし(一ノ二)」「萬事萬物を棄絶て、自己を棄絶て、又全く自愛心を棄絶つるべし(二ノ四)」或者は之を追求め或者に彼を追求め、彼は一事に傲り此は他事に誇る……汝は唯自ら輕視んじ自ら卑下る……を以て唯一の快樂とすべし(九ノ七)」と。

一六 桃……愛の火を保て……愛の取引

親愛なる姉上様、

貴姉は私の手紙があなたの爲になつたと仰せられますので、私は大に喜んで居ります然し私はそれに就て決して了見違をせぬと斷言致します。詩篇にも「主御自身家を建て給ふにあらずば、建つる者の勤勞は空し(一二六)」と。如何に巧みな談話でも、心に感動を與へる聖寵に依らなければ、一の愛徳の行爲をも生ぜざる事が出来ません。

譬へば茲に一の桃があります。其皮はまことに美しく色づき、其味は如何に巧みな菓子屋でも之を真似る事が出来ない程に住き味をもつて居ります。セリナ様よ！天主様は斯様な綺麗な色、天鵝絨の如な美しく柔かな皮を造つて下さつたのは、桃其もの、ためでありませうか？、又天主様は斯の如く甘く美き味を與へられたのは、桃其もの、ためでありませうか？……否々決して左様ではなく是皆我等の爲でありまして、桃其もの、が所有して居る唯一のものは、即ち桃とならしめる所の核子のみであります。丁度此道理

と同じく、主は喜んで或者等に其責を饒にお與へになるのは、彼等を以て他の靈魂等を惹き給ふ爲めでありませう。併し同時に心の中に彼等(養を受)を慈愛によつて卑下させるを以て彼等をして徐々に自分が空しき者、無能なる者であるといふ事、又主が全能の御方であるといふ事を、是非認識させやうといふ深き聖慮であります。此等の觀念は此靈魂の中に於て、丁度聖寵の核子の如きものとなり、主が此を早く成熟させんと努めて下さるのであります。そは彼等の靈魂に變る事も消ゆる事も出来ない優美甘味を帯びさせて少しの危険もなく(傲慢等を起させず)幸なる日即ち天國の食卓の上に到らした聖慮であるからであります。

親愛なる姉上様、我靈魂の反響なる小さき姉上様よ! テレジアは今高尚な考へ慰めを得て居りません、然し私は今のやうに無感覺の状態になつて、善徳を行ふ事も祈る事さへも出来ないやうになつた時には、耶穌様を喜ばせたいといふ目的で、何でもない些細な機會を探します。例へば私が黙つて居たい時、煩さうな顔を見せたいやうな場合には、微笑を見せ優しい言葉を發するやうに致します、そして若しさういふ機會もない時

にはせめて耶穌様に向つて、私は主を愛し奉るご度々反覆します、之はさのみ困難い事ではなく、我心の中に於て愛の火の消えないやうに保つため、縱令此愛の火が消えて居るやうに見えて居つても、私は其愛の上に小さき藁を投げて置けば、此火は直に再び燃ゆるに相違ないと確信して居ります。

私は無論絶えず忠義なる者であるとは云はれません、が少しも力を落さず望を失はずして我身を主に托せて居ります。それで主は私の心の中にあるすべての物を、善であれ惡であれ悉皆我利益にならしめるやうな方法を私に教へて呉れました。又愛の取引を私に教へて下さいました。否寧ろ耶穌様は私に代つて取引を爲され、私には如何いふ風に遣つて下さるのか、それさへも教へて下さらないのであります。是は主御自身に關する事ではありません、私の務めは唯全く我身をお托せ申すのであります。それで其取引には幾千の利益を得たかといふ事を知る楽しみまでも打棄てねばなりません。畢竟私は「放蕩息子(ルカ一五)」ではなく、常に耶穌様と偕に居りますから、主は私の爲に喜びの響應を設けて下さるに及びません。

見るか、陣營に於ける樂隊の如きものではないか(雅歌)と。貴姉の生涯は苦みの爲に丁度戰場の如きものであります、凡て戰場には樂隊が必要であります。さらば貴姉は耶蘇様の小さき七絃琴であります。然しもし誰も歌ふ者がなかつたならば其奏隊の音楽は完全であると云へませうか、決して左様ではありますまい。耶蘇様が此樂器を鳴らし玉ふから貴姉は歌はねばならぬではありませんか、耶蘇様の奏樂は哀れな譜であれば、貴姉も逐調の歌を歌たひ、喜ばしい譜であれば天國の歌を歌ふであります。嬉しき事も悲しい事も、現世の總ての出來事は唯遠い響に過ぎずして、耶蘇様の七絃琴(セリナ)の弦を響かせるに足りません。唯獨り耶蘇様のみ其弦を軽く奏つる權利を以て居られます。私は彼の愛すべき小さき聖セシリアの事を憶れずには居られません。あ、實に彼は立派な龜鑑ではありませんか……彼は危険なる異教の人々の中に於て、唯肉體上の愛のみを望む某に、強て配偶とせられやうとする時、普通なれば大に懼れて嘆き悲む筈であるのに、彼は其結婚式を祝ふ爲に鳴つて居るいろ／＼の樂器の音を聞きながら、自分の心の中に勇ましく歌うて居りました。嗚呼彼が天主様の聖慮に托せるといふ勇猛心は、

私は聖福音書の中に於て、善き牧者なる耶蘇様は、總ての忠義なる羊を沙漠の中に逐放ち、迷うて居る羊を尋ねに出られる、といふ事を知りました。私は耶蘇様の此御信用を如何にも喜ばしく感謝して居ります。御覽なさい、主は此忠義なる羊を深く信用して居られます。彼等は如何して逃げる事が出来ませうか、彼等は愛の爲に虜となつて居ります。斯の如く愛すべき牧者なる主は私等に御自分を隠しなされるのは罪人を慰めなされる爲であります。或は若し我等に愉快樂みを感じさせる爲め「ダボール山」に連れ行き下さるならば、それは實に一瞬間の事でありませう。牧場は大概谿谷の間であります。そして主は「正午頃其處に御休憩に(雅歌一)」なります。

一七 七絃琴聖女セシリアの歌……無能を甘んせよ

(千八百九十三年十月廿日)

我親愛なる姉上様、

私は「雅歌」の中に貴姉に能々適合する句を見出しました。即ち「汝等妻に於て何を

如何にも感嘆すべき事ではありませんか、其時彼は疑もなく、此地上の音楽よりも更に優れて居る音楽を聞いて居つたのでありませう。彼の天配も歌うて居られたのでありませう、又天使等も「最高き處には神に光榮、地には善意の人々に平安(ルカ二)」といふ讚美歌を繰返して歌うて居つたのでありませう。

神の光榮……あ、聖セシリアは之を能く辨へ、満腔の熱誠を以て望んで居りました。また耶蘇様は靈魂を渴望し給ふといふ事をも能く察して居りました、それ故彼は、唯此世間の榮譽のみを慕うて居つた彼の若き羅馬人を、耶蘇様に惹寄せたいといふ望のみを懷き、此若き羅馬人を以て殉教者とならしめ、そして多數のものが彼の跡に慕ひ行きまじやう。セシリアは何をも怖れませんが、天使等は平安を豫言し、平安を讚美したので、平安の王は是非自分を保護し、自分の清淨を守り自分に報いを與へて下さるといふ事を能く知つて居られました。「吁童貞を守る清淨潔白なる靈魂等は如何に美しきかな(四ノ一)」親愛なる姉上様、私は今貴姉に申上げる事の是非曲直を知りませんが、筆にまかせて申上げます。貴姉が自分の弱きことを能く感じて居るといふ事を私に申越されましたが

是は大なる恩寵で、貴姉の靈魂に自己の力を信賴とする事が出来ないといふ思想を、心に刻み付けなされた方は即ち聖主であります。決して心配爲なされるな、若し貴姉が怠らずして些細な機會がある毎に、耶蘇様を御歎ばせ申すことを忠實に行ひなされるならば、聖主も亦大なる機會に於て貴姉を保護せねばならぬやうになります。

使徒達は耶蘇様に別れて終夜一尾の魚をも獲ずに働きましたが、此働きは主の御氣に召しました、主は主御自身のみ我等に物を得させる事が出来るといふことをも證明したいと望まれ、我等に唯一の謙遜の所爲を爲さん事を望んで居られました。主は「子等よ食物あるか(二ノ五)」と御尋になられた時、聖ペトロは自分の無能を告白して「師よ、我等終夜働きて何をも獲ざりき(五ノ五)」と御答へしました。此告白のみで、耶蘇様の聖心は大に感動されました。若し此時聖ペトロは若干かの小魚でも漁つて居つたならば聖主は或は奇蹟を行ひ給はなかつたかも知れませんが、然しペトロは「何をも」獲なかつたので、主は早速其全能と慈仁とによつて彼の大きな網に魚を充たされたのであります。聖主の聖心は斯の如く、神として惜氣なく我等に物を與へて下さいますが、其代り是

非我等の方より心の謙遜を要求し給ふのであります。

一八 敵の軍車……愛の證據 (千八百九十四年七月七日)

親愛なる小さき姉上様、

貴姉は其後も矢張、私に知らせて下さつたと同じ精神状態でお居でになるであらうとお察し致します。兎に角私は「雅歌」の次の句を以て貴姉に御答へ致します。此處は無感覺の状態に沈んで居る靈魂……如何なる事を爲しても喜びをも感せず、また慰めをも受ける事の出来ない靈魂の事に就て、綿密に記されてあります。

「我れ谷の青き草木を見、葡萄の實熟せしか、柘榴の花咲きしかを視ん爲に、胡桃の園に降つた。が自分の居所さへも分らぬやうになり、我靈魂はアミナダブ、乃ち敵(悪魔)の軍車の爲に辭され憂ひました(六二〇)。」

と、此は即ち我等の靈魂の象形であります。我等は我心を養はれるのを見る爲に度々饒かな谷に下ります。又聖書の中にある廣き畑……我等の爲に最も貴き寶を興へる爲に屢

屢開いた此畑も、我等には早魘して居る沙漠の如くに見え、自分の居る所さへも分らぬやうになり、平安や光りの代りに、憂ひ暗は我等のものとなつたのであります。然し彼の雅歌の「妻」の如く此試しの原因を我等がよく知つて居ります。即ち我靈魂はアミナダブの軍車の爲に憂ひました。我等は未だ本國に居りません。そして金鐵は火の中に於て純潔にならしめられる如く、誘惑は我等を純潔にならしめねばなりません。時々我等は見棄てられたやうに感じ、悲しい事には軍車乃ち我等を襲ひ取圍んで、我等を悲ませる所の空しい騒ぎは我等の内にあるのか外にあるのか、それすらも一向分りません。然し耶蘇様は能く之を御存知であります。主は我等の悲みを御覽になるから、我等は此暗の中に於ても「歸れ〜シユラミの婦よ、歸れ〜我等汝を視ん事を願ふ(雅歌六)」。と云ふ主の御聲が突然聞えるのであります。あ、歡ばしい事には、我等が自己に歸る事さへも出来ない程に自分を厭がつて居つた所が、主は我等を緩々眺めたいと思召して呼寄せて下さるのであります。主は我等に逢ひたくて來り給ふのであります。又聖父と聖靈と共に我靈魂を占領しに來て下さるのであります。聖主は豫て云ふに言はれぬ仁慈を

以て、人若し我を愛せば我言を守らん、斯て我父は彼を愛し給ひ、我等彼に至りて其内に住まん(ヨハネ四ノ二三)」と約束して下さつたのであります。

耶蘇様の聖言を守るのは福樂を得べき唯一の條件であつて、主を愛し奉るの證據であります。そして私の考へには此聖言は即ち耶蘇様御自身であります、何故なれば主は聖書の中に御自分の事を指して、造られざる「言葉」と仰せられてあります……聖ヨハネ福音書に記されてある通り主は次の高尚な祈禱を爲されました。即ち「願くは彼等を真理の中に(御言を以)聖ならしめ給へ、御言は即ち真理なればなり(二七)」と。又主は他の所に於て、我は道なり、真理なり、生命なり(ヨハネ一四ノ六)」といふ事を教へて下さいました。夫故我等は守るべき言は何であるかを能く知つて居りますから、ピラトの如く「真理とは何ぞや(ヨハネ一八ノ三三)」と申す事が出来ません、何故なれば愛すべき耶蘇様は我等の心裡に住み給ふのでありますから、我等が真理を持つて居るのであります。兎に角此愛すべき主耶蘇様は、度々「我愛する御方は我にとりては没藥(苦)の如きものである(雅歌一ノ二)」と。我々は彼の苦の杯を分けて貰ふのであります。そして他日次の優しい聖言を承はる

一九 死に就ての豫言……父の返禮……小さき獵犬

(千八百九十四年八月十九日)

時には如何に歡ばしい事でありませうぞ。汝等是我患難の中に於て絶えず我に伴ひし者なれば我父の我に備へ給ひし如く、我も汝等の爲に國を備へんとする(ルカ二二ノ一)……。

親愛なる小さき姉上様、

私は貴姉と物語る爲に筆を執るのは、之が最後であるかも知れません。天主様は私の最も望ましい願ひを聽容れて下さつたのであります。お出で下さい私等俱に共に苦みませう。後に耶蘇様は私等姉妹の中から一人を御取りになり、他の者をまだ良久此逐謫の地に遣されるであります。姉上様、私が今申上げる事に能く注意して下さい、愛憐深き天主様は我等姉妹を決して別れ離させませんから、若し私が貴姉に先立つて死にましても私が貴姉の靈魂から離れたと想うて下さるな。私等は一層深く一致して居りませう。殊に私の豫言について心配して下さい。此豫言は小兒らしき戯談であります。私は決

して病氣ではなく鐵の如き強き健康を保つて居ります。然し聖主は此鐵をも陶器の如くに容易く壊す事が出来ません。

私は深く愛する父がいつも私等の側に居られるといふ事を深く感動する程に覺つて居ります。私は死の如き辛き五年間の生活を送られた父……然かも前よりも一層深く愛して下さる父に再び會ふのは、あ、何といふ喜ばしい事でありませうぞ！貴姉が惜氣なく働き介抱せられた所の父は、深き愛を籠めて貴姉に返禮するであります。貴姉は天使の如くに父を慰められましたから、父も亦天使の如くに貴姉を守護して下さるであります。せう、御覽なさい父は天國に昇られてから（千八百九十四年）まだ一箇月も経ないのに、彼の權能ある御傳達によつて、貴姉の願は總て皆聽容れられたではありませんか、唯今父は私等の用事を片附る事が最も容易い事であります。それで貴姉の爲に以前自分の「小さき女王」の爲になされた如な心配もなく容易に修院に入る許可を得させて呉れました。貴姉は餘程以前から修練女に關する事、殊に私の任務に就て度々お尋ねになりました。それで私は今日貴姉に御満足を與へませう。私は小さき獵犬の如き者であります、此獵

犬といふ名義は私に多くの心配をかけます。孰れ貴姉が後にお分りになりますが、此名義には随分煩はしい任務がついて居ります。獵師等即ち修院長、修練長は藪の中に潜り入るには脊が高すぎますが、小さき獵犬は如何なる狭い所にでも容易く入る事が出来、尙其上鼻の鋭敏なものであります。それで私は毎日朝から晩まで鳥獸を追かけて行き、また小さき兎達を能く注意して護つて居ります。然し決して彼等に害を加へようとは思ひません。時々彼等を背めながら汝の毛は未だ綺麗でないとか、汝の眼付は飼兎の眼付に能く似て居るとかど申します。之は畢竟彼等をして獵師（主耶蘇様）の望み給ふやうなものにならしめ、彼等をして小さき草のみを喰ふ事ばかりにかゝつて居る、質朴な小さき兎とならしめたいといふ目的であります。

私は之を認めながら笑うて居ります。然し實際私が今申して居る此小さき一頭の兎は……貴姉はそれをよく御存知であります（セリナ）……小さき獵犬よりも數層倍善良なるものであるといふ事を、私は堅く信じて居ります。彼は今迄多くの危険を経ました。然し若し私が彼の境遇に居つたならば、餘程以前から世間といふ廣き森の中に捕はれて了ふ

たであらうといふ事を茲に自白致します。

二〇 發狂者……香油の薫

親愛なる小さき姉上様、

貴姉が一の感情的樂みもなくしてカルメル會 修院に入りなされたのは、私の大に歡ばしいと思ふ事でありませぬ。之は耶穌様は貴姉から土産を受けたいと聖慮す懇ろのあまりに斯く計うて下さつたのであります。物を貰ふより與へる方は眞に樂しいといふ事を主は能く御存知であります。私等は發狂する程までに私等を愛して下さる御方の爲に苦み、世間の人々より自分も發狂者であるごまで見做されるのは、あ、何といふ喜ばしい事でありませうぞ。人々は自己を以て他人の事を推測るのでありますから、發狂者なる世間の人々が我等を發狂者と見做し呼ぶのは當然の事でありませぬ。

私等は之に就て心配するには及びませぬ、發狂者と呼ばれるのは私等が始めてではありませぬ。聖主耶穌基督は彼のヘロデ王から負はされた所の罪は、即ち唯發狂者といふ

故のみでありました。成程實際其通り、諸天使の上に座を占めてお居でになる光榮の王なる耶穌様は、哀れな人間の小さき心を御自分の王座にならしめやうと聖慮して、彼等を此下界に訪ね來られましたのは寔に愚者の遣方、發狂者と申してもよろしい。聖主は聖父と愛の聖靈と共に完全なる福樂を持つて居られたのに此地上の罪人を御自分の親密なる友となさん聖慮で此世に降臨りなされたのは、あ、何の故でありませうと天配なる聖主は我等の爲に行うて下さつたと同じやうな發狂的動作をば我等の行ひは逆も主の行ひに比べるご大に合理的であります。世間の人々は我等に就て頓着せずともよろしい。私は却りて世間の人々は發狂者であるといふ事を繰返します。實に彼等は耶穌様が彼等を地獄より救はんが爲めに行はれた事、又苦みなされた事、忍びなされた事を知りませぬ。私等は決して怠者でもなければ浪費者でもありません。聖主御自身は私等を辯護して下さいました。御聴ください、或時耶穌様はラザルと弟子達と僧に食卓に就いて居られました。其時マルタが給仕し、マリア・マグダレナは唯自分の愛し奉つる御方の聖心を歡ばせやうと思つて『價高き穂ナルドの香油を盛りたる器を持ち來り、其器を破り

て彼が頭に注ぎしかば……(マルコ)香油の薫香家に満てり(ヨハネ)』
 と使徒等はマグダレナについて吐きまされた、が世間の人々も我等に對して斯くなくならず
 又熱心なる信者の中にも、私等が極端に走る者である……即ち我等の生命の器(身軀)
 とそれに、含れて居る香油(祈禱默想)とを主に献げるよりも、マルタと共に耶蘇様の給
 仕(慈善)を爲す方が良いと思つて居る者もあります。然しながら聖主が慰めをお受けに
 なり、また世間の人々も否でも此器物から發する所の香油を嗅がねばならぬやうになり
 ますから、此器物は壊れても差支がありません、あ、實に此香油は世間の人々が吸つて
 居る有害なる空氣を、清潔にならしめる爲に、最も必要なものではありませんか？
 姉上様よ、さらば又近日中に御目にかゝりませう……貴姉の舟は近づきました、愛徳
 の風はそれを進ませます。そして此風は稻妻よりも迅きものであります。然らば數日中
 にカルメル修院内に於て御目に懸りませう。それから天國に於て……御目に懸りませう
 耶蘇様も御受難の時『やがて汝等、人の子が全能に在す神の右に坐して、空の雲に乗り
 來るを見るべし(マテカ)』と仰せられたではありませんか。私等も其處に居りませう。

イエズスのアグネス(姉ボリナ)に

二 若し一人の靈魂を救ふことが出来れば

(修院に入られる數箇月以前の書簡) (千八百八十七年)

親愛なる小きき母様、

貴姉は、天主様が我等に與へて下さる杯は總て皆一滴の苦味が交つて居ると申されま
 したが、寔に御尤であります。私は此地上から心を離れさせる爲に、苦味なる難儀苦痛
 が大に助けになるといふ事が分りました。苦難は心の眼を此世界よりも高く仰がせるや
 うにします、此下界には何にも我等を満足させる事が出来ませず、唯天主様の聖旨を行
 ふ覺悟で居る者のみ、少しの甘味樂みを味ふのであります。

私の船は餘程以前から港(修院)を見て居りますが、其港に着く爲にいろ／＼と難儀
 をしいつも其港から離れて居ります。然し疑もなく耶蘇様は此小きき船を導かれ、決め
 なさつた日に於て愛すべく望ましいカルメル會修院の岸に着くやうに計うて下さるであ

りませう。姉上様 耶蘇様は此御恵を與へて下さつた時には、私は自身を全く主に献げ萬事主の爲に忍び、主の爲にのみ生きたいと望んで居ります。又私は最も苦く苦しい時にさへも鞭つて下さるものは耶蘇様の優しき御手であるといふ事を曉つて居りますから彼に打擲される事を恐れませぬ。

私等は一の苦難を快よく受けるならばその功績の爲に、永遠に餘計に天主様を愛するやうになると思ひ、其を甘んじ忍びます。あ、若し私の死際に、救ふた一人の靈魂をイエズス様に献げる事が出来るならば、私は如何程喜ぶでありませう！それが爲に地獄の靈魂が一人減り、永遠に天主様を讚美する靈魂が一人殖る譯であります。

二三 小さき玉……心は凡ての寶より大なり

(着衣式前の黙想會中)

(千八百八十九年一月)

小さき母上様、

耶蘇様との關係は、少しの慰安をも受けず、イエズス様は眠つて居るやうな有様であ

ります。然し我愛する御方は眠りたいといふ聖慮であれば、私は強ひてお妨げを致しませぬ。彼は私に對して少しも遠慮せられず、私を他人の如くに取扱はずして家庭のもの、如くに取扱ふて下さるのを見て、私は大に喜んで居ります。また彼は御自分の「小さき玉(テレジア)」を針で突くやうに痛く苦めて居られます。然し玉を突くものは、此柔しき聖主であるならば、彼の御手は人々の手とは大に違つて、至てやさしくありますから痛み苦みは樂みに變つて了ひます。

若し耶蘇様は直接に御自分の「小さき玉」を刺して下さらないとしても、此「小さき玉」を刺す手は、矢張主に導かれて居るのでありますから、私は苦むのを大に喜ぶのであります。小さき母上様、あ、若し貴姉が、私は如何程に此世間の事に無頓着になりたかと思つて居るかを御存知になるならば……私は作られた凡ての美に頓着しません、若し私がそれを懷いて居るならば、却て不幸な者でありませう、私は自分の心を此世の凡ての寶物に比べると、此心の方が隻に大なるもの、やうに見えます。何故なれば此世の世の寶物は悉く皆私の心に満足を與へる事が出来ませんから……然し此心を耶蘇様に

比較して見ますと、至つて小さき者の如に見えます。

後刻我天配となられる御方は、私に對して如何にも愛深き御方に、此地上のもの、一つにも我心を奪はれないやうに計ふて下さつたのは、あ、實に何とも云へぬ深き慈愛ではありませんか。又彼は若し私に此世の幸福の影でも與へるならば、私は直に全力を以て心を其方に傾けるに相違ないといふ事を能く御在知でありますから、此影さへも私に與へて下さりません。彼は御自分にあらざる偽の光を私に與へるよりも、私を暗闇の中に置く方が宜いといふ聖慮であります。それ故私も彼造物の爲に私の愛の一分子も惹かれないやうに注意し、私の愛を全く耶蘇様に献げたいと望んで居ります、何故なれば、聖主は御自分のみ完全なる幸福であるといふ事を私に曉して下さりましたなら萬事主の爲に……又今晚の如し、全く「無一物」となつて、何を主にも捧げる事が出来ないやうになつた時には此「無一物」を捧げる積りであります。

二三 我が唯一の力

………我唯一の力………我が弱きこと………吁此心の痛み、痛み苦みを覺へざる此針で、刺される事を、私は最も好ましく思ひます。凡ての脱魄より犠牲の方を望みます。私は眞正の幸福を得る道を犠牲より他に見出す事が出来ません。小さき蘆（テレシア）は愛の川の畔に植はつて居りますから、自ら折れはすまいかといふやうな事を少しも心配しません。そして此蘆が風の爲に川面に屈む時は、其都度有益なる川水は之を強めて呉れるので、尙後にも亦嵐が起つて自分の頭を下げさせて呉れ、ば宜いと望まされるのであります。私の唯一の力となるものは、即ち私の弱き事でありませぬ。私は折れる事が出来ません、何となれば如何なる出来事に逢ふても、耶蘇様の柔しき御手より他に何事をも見ないからであります。勝利の「月桂冠」を得る爲に、縦如令何なる苦難を受けねばならぬやうになつても、決して其苦難を過大といふてはなりません……。

二四 地下道の旅行(誓願式前の黙想會中)…… (千八百九十年九月)

親愛なる小さき母上様、

貴姉の小さき隠遁者(テレジア)が今自分の旅行の道筋を貴姉に紹介致しませう。

私の許嫁なる御方が私に向つて、如何なる國へ旅行したいか、如何なる道筋を通りた
いかと御尋ねになりましたので、私は唯愛の山の絶頂まで登りたいといふ事を御答へ致
しました。スルと私の眼前に多くの道筋が現はれましたが然し此種々の道筋の中には、
極く良いと思ふのも澤山ありますので、私が勝手にまかせて是といふ道を選ぶ事が到底
出来ませんでした。乃で私は會き案内者に向つて「主よ、私の行きたいと思ふ目的地も
私は此山に登りたいと望むのに誰の爲であるかといふ事も、また私が愛し喜ばせたいと
思ふ唯一の御方は誰であるかといふ事をも、主は能く御存知であります、私が此旅行を
始めるのは、唯此御方一人の爲でありますから、其御方が好み給ふ道を私に辿らせて
下さい。私は此御方が御満足して下さりさへすれば何よりの幸福であります」と申しま

した。

スルと聖主は私の手を執つての地下の道に導いて下さいました。此地下道には寒さも
なければ暑さもなく、太陽も照さず雨も風も少しも入りません。そして幽かな光明より
他には何物をも見る事が出来ません、此光明は耶蘇様の聖き面影の御目庇から發する光
線であります。私の許嫁なる御方は何事も仰せられず黙つて居られます。私も亦た主
を己よりも愛する、といふより外には何にも申しません。即ち私は自己に従屬うて居る
者ではなく、耶蘇様に從屬うて居る者であるといふ事を、深く心の底に感じて居ります
そして此旅行は地下に於て進むのでありますから、今此旅行が目的地の方に進み近づい
て居るのか一向見當が付きません、然し私は如何いふ理由か知りませんが、山の絶頂に
近づいて居るやうに想はれます。

私は此暗みなる地下道を歩ませて下さる事を耶蘇様に厚く感謝致します。私は此暗
闇の中に大なる平和を感じ、主が導いて下さつた此暗き地下道を、一生涯甘んじ喜んで
進みます、そして私の此暗闇の爲に罪人が光明を受けん事を望みます。

私は何の慰安をも受けないのを却て幸福であると思ひます。世間の女等は其許嫁の夫等を見れば、何か土産物を持つて来て呉れたのではあるまいかと思つて、其手より目を離さないやうにし、又彼は自分等を歡ばせやうとする微笑を見たいと思つて彼等の顔に目を注ぐのであります。が私の愛はもし彼等の愛に似て居るならば實に耻かしい譯であります……。耶蘇様の小さき許嫁なるテレジアは、耶蘇様其御者を愛して居ります。そして愛する聖主 御顔を眺めたいと思ふのは、唯御涙を見たいと思ふからで、此御涙は人人に知られない深き喜びを與へて下さいます。テレジアは靈魂上の結婚式の用ゆる衣服を飾り彫める爲に此御涙を拭ひ、是を最も高價なる寶玉として受けたいと思つて居ります。

あ、私は、如何許り深く耶蘇様を愛したいか！誰も未だ曾て斯迄に主を愛した事がないといふ程に深く厚く主を愛したい。縱令如何に高き代價を拂はねばならぬ事があつても私は聖アグネスの殉教の「バルマ」を摘みたい、そして若し私は血を流す事が出来なければ、熱愛を以て之を得たいのであります。

二五 愛の心 (千八百九十一年)

愛は長壽を償ふ事が出来ず。耶蘇様は永遠なる御方でありますから「時間」に注意せられずして、唯愛にのみ注意せられます。小さき母上様、何卒私の爲に、主を深く愛する恩寵を與へて下さるやう願うて下さい。私は感情的の愛を望みません。私の愛が自身に感せずとも、耶蘇様が之をお曉りになりさへすれば、それで十分であります。あ、耶蘇様を愛し人々にも愛させる事は如何に愉快なことに。若し私がイエズス様に背くといふやうな事があるならば、何卒私を誓願式の日に取つて(死)下さるやうに願うて下さい。私は第二の洗禮ともいふべき此誓願式の時の白い服を、小しも汚さずして其まゝ天に持つて行きたいからであります。然し耶蘇様は私に、罪科を犯させない恩寵を與へて下さる事も出来ず、また少しも耶蘇様の聖心を痛めず、聖心に逆らはずして唯私に謙遜の心を起させ、益々私の愛を強める爲の落度より外には、如何なる過失にも陥らぬやうな恩寵を與へて下さる事も出来ず。耶蘇様の他に便とすべき者は一人もなく、耶蘇様のみ不變な御方であるといふ事を念ふのは、如何にも歡ばしい事でありませぬ。

二六 言葉を慎め

(千八百九十一年)

親愛なる小さき母様、

貴姉の御手紙は大に私を喜ばせ、大に私の爲に。殊に「他人の眼に自分が高められるやうな言葉は、一言も云はずに居れよ」と仰せられた事は私の靈魂に特別の光を興へました。左様實際私等は深甚なる注意を拂うて、何事も主の爲に遣して置かねばなりません。そして耶蘇様の爲にのみ働くならば、其者の心に喜び樂みが満ち、其者の靈魂は如何にも輕快となります。小さき母様、小さき砂粒なる私が、僅少の日數の間に多數の靈魂を救ひ助け、速く主の尊き面影の方へ飛び行く事が出来るやう、何卒主に願うて下さい……。

二七 小砂一粒の理想

(千八百九十二年)

小砂の一粒なる私の理想は次の如くであります。耶蘇様のみ……耶蘇様の他には何にも……。此砂粒が至つて小さきものでありますから、若し其心を耶蘇様より他の者に開

くならば、最早此親愛なる御方の爲に場所が無くなりません。

私等は誰にも想はれず、私等と同居して居た人々にさへも知られぬ程に隠れて居るの
は、如何にも喜ばしい事でありませぬ。小さき母様、私は總ての人々に知られないやうに
と深く望みます。私は今迄決して世間的の榮譽を望みませんでした。却て蔑視に爲られ
る事は私の心に楽しいことではありませんが、それさへも尙私に取つて樂譽であるといふ
事を認めましたから、知られぬやう又忘れられるやうにと努めるやうになりました。私
の大使は唯耶蘇様の御光榮のみでありますから、私の榮譽を耶蘇様に献げます、そして
耶蘇様は私を見忘るやうに爲されても、私は自分のものではなく主の有でありますから
如何に爲されるも御自由であります。然し耶蘇様は何時までも私を見忘れたまへで居ら
れるか、或は私はそれが爲に主を愛する事を中止するか、孰らが待遠しさに堪へずして
負けるでせうか?……恐らくは主の方が私よりも早く御負けになるであります……。

二八 落度の後の心得

千八百九十七年五月廿八日

(此日テレジアは發熱の爲に甚しく苦んで居られたが其最中、某修道女が来て、或困難な仕事を話し、早く手助を爲るやうにと願ひました。其時テレジアの顔には急に内心の戦ひが現はれました(之を承知しようか断らうか)と其時丁度修院長なる姉イエズスのアグネス童貞が側に居られたので、テレジアの衷心を悟りました。後テレジアは直様承知して其仕事を手傳ひ、夜此手紙を認められたのであります。)

愛すべき母様、

貴姉の小兒(テレジア)は先刻涙を流しました。此涙は痛悔の涙でありましたが、また同時に之が感謝と愛との涙でありました。今日貴姉は私の善徳、私の貯へた忍耐の寶が如何許僅かといふ事を、嘸御存知になられたでありませう。常々人々を教へ導く私が斯様なことを致しました。然し貴姉が此缺點を御覽になつた事を私の大に喜んで居ります。私は御叱を蒙るべき所であつたのに、貴姉は何にも咎めて下さいませんでした。あ

、貴姉の慈和は如何なる場合に於ても、嚴しい訓戒よりも強く私に感動を與へます。私に取つて貴姉は天主様の慈悲の象りであります。之に反して彼の某修道女は常常私に取つて、天主様の正義の象りであります。私は先刻此修道女に出會しました。所が彼は毎時の如く冷淡な態度をして私の側を通り過ぎませんでした、のみならず至つて親切に私に挨拶して「あ、テレジア様私は先刻和女を不惑に想ひました。和女に苦勞をさせたくありませんから、私がお頼みした仕事を何卒其儘に打棄て、置いて下さい、私は悪くありません」と申しました。

其時既に完全なる痛悔を感じて居つた私は、此修道女から少しの小言をも聞かなかつたのを大に不審に思ひました。そして「彼は實際に私を不完全な者であると思つて居るに相違ない、彼は私に斯く優しく申した譯は、最早私を死に瀕て居る者であると思ふてゝあらう、兎に角私は彼の口からたゞ甘く親切なる言葉のみを聞いたのであるから、彼はまことに善い御方である、そして自分は至つて悪い者である」と思ひました。部屋に歸つて後私は唯獨り、「耶蘇様は私の事に就て何と申すお居でなさるであらうか」と考

へて居りました、スルと不圖耶穌様は或日姦婦に對して仰せられた『誰も汝を罪に定めざりしか(ハノ一〇)』といふ聖言を憶出しました、それで涙を流しながら主に向つて斯く御答へ致しました「主よ誰も……主の慈悲の象りなる我小さき母様も、主の正義の象りなる某修道女も私を罪に定めませんでした。そして主も亦私を罪に定めて下さるまいから私は安心して歸つても宜いといふ事を曉つて居ります……」と。

あ、愛すべき母様、私は今貴姉に自白致します。私は這度聖寵の恩祐によつて忍耐の模範となつた事よりも、斯の如き落度を爲した事を大なる幸ひと思つて喜んで居ります。耶穌様は相も變らず私に對しては柔和にして慈愛を垂れて下さるといふ事を思ふのは、私に取つては何よりも喜ばしく、また何よりも爲となりますので、私は感謝と愛に堪へずして死ぬる程であります、小さい母様、今晚天主様の慈愛の器は、貴姉の小兒(テレシア)に對して溢れる程に充たされたといふ事を能く御曉りませう。あ、私は今悟りました……左様私の凡ての希望は果されませう……左様主は私の無限希望に超ゆる所の奇しき御業を行つて下さるに相違ありません。

姉聖心のマリア(代母)に

二九 小さき羊の死 (千八百八十八年二月廿一日)

親愛なるマリア様

前週父が私に與へて下さつたものは何であるか貴姉に言當てさせませうか、貴姉は百度千度繰返しても恐らく之を言當てる事が出来ませうまい。

實は親愛なる父は私に「カルメル修院に入らぬ以前に汝に小羊を一つ持たせたい」といふて、或朝其日生れの純白な可愛らしい小羊を購うて呉れました。私等一同面白がつて居りましたが、其中にもセリナは特に喜び樂んで居りました。

私は父が之を買求めて下さつた時の慈愛に深く感じました。此小羊といふものは私等に無数の神祕を想出させるものであります。それで之を貰ひましたのは實に結構な事でありました。然し其運命を待たずして無暗に歡んではなりません。私等は此小羊を得ると直に「西班牙に城を建て、……(空中樓閣を畫くといふ意味で佛蘭西の格言)……二

三日せば此美しく可愛らしい小羊が、私等の側を飛廻るであらうなどと想像して居つた所が、悲しい事には其日午後敢なく死にました……彼は生れ落つるや否や苦み、また間もなく死んだのであります。

此小羊は至つて可愛らしい無邪氣でありましたから、彼の死後セリナは其すがたを書きました。父は穴を掘つて呉れましたので、眠つて居るやうな此小羊を空中に寝かせました、そして私は之を土で埋めるのは可哀想でしたから、雪を以て覆ひ埋めました、之で終りであつた。

我代母なるアリア様、此小さき羊の死は私に、如何なる感念を與へたか、察し難いでありませう。此地上に於ては縦令如何に良きものであらうとも、何事も自分の心に密着せないやう、能く注意せねばなりません、私等が死なぬ前に於てもいつもいつも其物が私等を離れて了ひます、私等に満足を與へ得る唯一のものは、即ち永遠に存在するものゝみであります。

三〇 渴きを癒す唯一の泉……(着表式前の黙想會中)

(千八百八十九年一月八日)

親愛なるマリア様、

貴姉は毎時喜んで小さき羊と呼びなされる所の私は、貴姉から少しの力と少しの勇氣とを拜借したいと思ひます。私は唯今耶穌様に向つて何事も申上げること出来ず、耶穌様も亦私に沈黙を守りて居られます。然しそれにも拘らず私は此度の黙想會即ち心靈の修業は、靈魂の底までを見透し得る御方の聖心に適ひまするやうにと努めて居ります。何卒私の爲に祈つて下さい。

寔に人世は犠牲の繼續であります。然るに何故此人生に於て幸福安樂を求め慕ふのでありませうか？ 私等の母なる聖テレジアは申された通り、畢竟此人世は茅屋に宿らねばならぬ一夜の如きものではありませんか？ 私は幸福を渴望して居るといふ事を貴姉に自白致しますが、此渴望を癒し得るものは此世に於て絶対に無いといふ事を能く曉つて居ります。それで若し此渴きを癒さんとして人生の泉……人を蕩かす逸樂の泉に於て飲め

ば、却て益々渴きを覺え、咽喉が燃ゆるやうに甚しくなるであらうと思ひます、然し私
が知つて居る唯一の泉に於て飲むならば尙『渴き(集會書二)』を感じますが、然し其渴き
は苦くなくして何時でも癒す事の出来る渴きであります、即ち此泉は唯耶蘇様にのみ知
られたる苦みであります。

三一 天に寶を貯へよ (千八百八十九年八月四日)

貴姉は小さき羊なる私の消息を聞きたいと申越されましたが、私は如何なる御答へを
致しませうぞ!、私は貴姉に教へて頂いたものではありませんか……さすれば貴姉は私を
膝の上に乗せて、種々と天國の事等を話して下さつた事を憶出して下さい。私は貴姉が
其時に仰しやつた次の言葉を、まだ今日の如くに能く覺て居ります。即ち小さきテレ
シアよ、富豪になりたいと思つて居る人を御覽なさい、彼等は財寶を儲ける爲に如何程
の苦勞を爲るか?、然し我等は左程の苦勞を爲すとも、熊手で掻集めるが如くに多くの
寶を、天國に於て得る事く出来る。そして之を得る爲には、我等は總ての所爲を唯天主

様を愛するがためにのみ行ひさへすれば、それで充分である」と。

私は此御言葉を聞いて大に喜び、大なる寶を天に貯へやうといふ望みに満たされて貴
女の膝下を去りましたが。私等の樂しき家庭に送つて此幸福な月日は己に業に過去つて
了ひました。そして耶蘇様は其時分から私等を訪ねられ、私等を苦み誘試に遭ふに適當
なる者を見做されたのであります。主は我等に仰せられるには、『終の日に……我等の目
より涙を悉く拭去り(黙示録二、四)』給はんと。無論拭ひ去られる涙が多ければ多き程慰安も
亦大でありませう。貴姉が育て、下さつた所の私……貴姉の御世話がなかつたならば多
分カルメル修院に入る事が出来なかつた所の小さき娘の爲に、何卒明日祈つて下さい。

三二 無上の歡喜 (誓願式前の默想會中) (千八百九十年九月四日)

貴女の小さき娘なる私は、滅多に天國の音楽を聴きませぬ。私の新婚旅行は一向興味
も樂みもなく……無論私の天配は饒にして立派な國に旅行させて下さいます。然し暗闇
の裡でありますから其立派な景色を少しも眺める事が出来ず殊に樂む事も出来ません

斯く申上げると、貴姉は多分私が之を悲んで居るかのやうに思召されるかも知れませんが、決して左様ではなく私は天配の恩恵の爲ではなく、天配そのもの、みを愛するが爲に、跡を慕うて行くのを大に歡んで居ります。此天配のみ如何に美しく、限りなく愛すべきことに、縱令彼は黙つて居られ、御自分がお隠れになります時でも、あなたの小さき娘の心を察して下さい。

此地上の樂みに飽いて、唯愛すべき耶蘇様をのみ慕うて居ります。私の此默想會中に於ける耶蘇様の御働きは、御自分意外に他の總てのものより私の心を離れさせるであつたと思ひます。

私の唯一の慰めは、至つて大きな勇氣と、至つて大なる平和とであります。そして私は耶蘇様が私を斯くならしめたいと聖慮す如き者とならん事を望みます。之は私の無上の歡喜であります。あ、若し貴姉は、私が如何に喜び樂んで耶蘇様の聖心を慰めたいと努めて居るかといふ事を御存知であるならば……。此歡喜は少しも私の五官に解れませんが、然し無上の歡喜であります。

三三

靈魂上の契

(千八百九十年九月七日)

私は明日耶蘇様の妻……『其顔をおほひて……誰も知らざりし(イザヤ書)』所の耶蘇様の妻となりませう。何如何なる契!如何なる立派な將來でありませうか? 私は耶蘇様に感謝し、また斯かる大なる恩恵を享けるに適ふべき者となる爲に如何に致しませうか。私は耶蘇様を全く愛し得られる所の天國の幸なる住所を、如何にも深く渴望して居るぞよ。然し天國に入るには悲み泣かねばなりませんから、私は愛すべき耶蘇様の聖心に適ふだけの、總ての苦難を耐へ忍びたいと思ひます。それで耶蘇様は御自分の「小さな玉」(テレジア)に對して如何に遊ばされやうとも、私は全く其聖慮にお托せ申します。

愛すべき代母マリア様、貴姉は私の結婚式、即ち誓願式の日、耶蘇様は至つて美しく飾られて居られると仰せられました、そして何故私は彼に桃色の新しき蠟燭を献げなかつたかといふ事を貴姉が不審に思つて居られます。之は他の理由ではなく、他の蠟燭の方は私の靈魂に一層嬉しき懐ひをさせるからであります。尤も此桃色(歡喜)の蠟燭は私の着衣式の日燃わ始めました、其當時は新しく其色も至つて鮮かで、之を私に與

へて下さつた父も其處に居られましたから、何も彼も總て嬉しく歡ばしい事ばかりでありました。然し唯今では此桃色は消え失せました……噫貴姉の小さきテレジアの爲には未だ此世界に於て桃色のやうな喜びがありませんか？、否々テレジアの爲に残る喜びは天國の歡びのみであります。此天國の歡喜には虚無き被造物は皆消え失せて、唯造られざる本源のみであります。

三四 眞に心貧しき者

(千八百九十六年九月十七日)

親愛なるマリア様、

貴姉は「私が主を愛すると同じやうに主を愛する事が出来るか」といふ事を私にお尋ねになりましたが、何故斯様なお尋ねをなさるのであるのか、私は容易く之に御答へする事が出来ません。私は殉教したいといふ望みを何でも思ひません。限りなく主に依頼したいといふ私の心は、此望みから起るのではありません。實際此希望を若し大なる喜びとし之を高價なるもの、やうに見做すと、丁度彼の靈的の「不正の富」であると申す事が出

來ます……。此望みは耶穌様は唯私の如くに弱き靈魂等……斯様な靈魂は夥しい……に對して、時々與へなさる一の慰めでありまして、我慰を與へなさらぬ時には此は特別の恩寵となりませぬ。某修道者は「殉教者等は喜びを以て苦辱を凌いだ、然し殉教者の王なる耶穌様は、愛を以て御受難の時に苦みなされた」と申したことを思ひ出さない、實際其通り聖主も「父よ、思召ならば此杯を我より取除き給へ(ルカ二二)」と仰せられました。之に因つても貴姉は私の殉教の望みが、私の愛の印象であるといふ事を想ふ事が出来ませぬ。あ、私の小さき靈魂の中にも、天主様の御氣に召すものは此望みではないといふ事を能く悟つて居ります、天主様の御氣に召す事は、即ち自分の弱きこと貧しきことを甘んじて居るといふ事と、盲者の如くになつて主の御愛憐に依靠るといふ事とであります。親愛なるマリア様、之は私の唯一の寶であります。如何して此寶が貴姉の寶となる事が出来ないのですか。

主の思召すま、何事をも耐忍ぶ覺悟で居られないのですか……私は貴姉が其覺悟で居られるといふ事を能く知つて居ります、それ故若し貴姉が喜びを感じたい、苦みを甘

んじ受けたいといふ事であれば、それは乃ち貴姉が慰めを探すといふ事であり、何故なれば或物事を愛する時には苦みが消けて了ひますから……若し耶蘇様は私の心向を變へて下さらずして兩人共に殉教するならば、疑もなく貴姉は大なる功績を樹て、私は少しの功績もないといふ事を斷言致します。

親愛なる姉上様、何卒私の申上げる事をお悟り下さい。耶蘇様を愛する爲め、イエズス様の愛の犠牲者となる爲めに弱く貧しき者であればある程私等を焼盡し同化させる所の主の愛を受けるに適當な者なるといふことを悟りて下さい、犠牲者となるといふ唯一の希望のみで充分であります。然し毎時貧しく小さき弱き者となつて居る事を覺悟せねばなりません、此點が即ち困難しい處であります。何となれば『萬物を離れて、眞實に心貧しき者を誰か発見さん、彼は遠く地の極端まで尋ねべき者であるから』キリストの模範』(二、四)に書いてあります。即ち心貧しき者は大聖人の中に尋ねばならぬのではなく、たゞ「遠く地の極端まで」……自己の卑しき、虚しき中に之を尋ねばなりません。あ、私等は表面に光つて居る者等から、遠く離れて居らねばなりません。私等が小

さき者なる事を甘んじて何をも感じ得ない事を甘んじて居らねばなりません。斯くして私等は心の貧しき者となつて居るならば、耶蘇様は如何に遠い所に居られても、必ず私等を迎へて来て下さるに相違ありません。そして私等を愛の炎に同化させて下さるでありませう。私は感じて居る事毎を貴姉に曉し得たいといふ事を大に望んで居りますが、あ、之は到底出来ませぬ……私等を愛(主)に導くべきものは、信頼心のみであります。彼の畏れは、説教者が罪人に説示し罪人を導く所の「厳しい正義」でありませぬが、耶蘇様は御自分を愛する者に施し給ふものは、此「厳しい正義」ではありますまい。愛情深き天主様は若し此特別の恩寵を貴姉に與へやうといふ聖慮がなかつたとするならば、貴姉に「主の慈愛に奪ひ取られたい」といふやうな望みを決して起させて下さらないであります。否々左様な事を申すよりは、天主様はその特恩を既に貴姉に與へて下さつたと申さねばなりません。何となれば貴姉は最早自己を天主様にお托せになり、主の愛に焼き盡されたいと望んで居られますから……又主は唯遂げさせた望みであります。さらば私等が道を知つて居りますから俱に走りませう……耶蘇様は私等兩人

に同じ恩恵を與へたい、私等に無料で天國の福樂を與へたいといふ聖慮があるといふ事を私はよく感じて居ります。

親愛なる代母よ、マリア様、貴姉は小さき娘（テレジア）に「耶穌様が汝に云表はして下さつた神祕を聴きたい」とお望みになります、人の言語は殆ど心に曉り得ない事を云表はす事が不可能であります。併し一面主は此神祕を貴姉にも云表はして下さるのであります。何故なれば私に耶穌様の御教訓を聴取る事を教へて下さつたのは貴姉ではありませんか。私が洗禮を領けた日に、私に天主様にのみ仕へませうといふ約束を爲せて下さつたのは貴姉ではありませんか。此逐調の地に於て常に私の手を執り、私を導いて下さつた守護の天使は貴姉でありました。私を主に献げたのも貴姉でありました。それで私は小兒が自分の母親を愛するが如くに貴姉を愛して居ります。私の心に溢れる程にある貴姉に對しての感謝の念ひは、貴姉が天國に昇られて始めて御知りになります。……あなたの小さき子供、幼きイエズスのテレジア。

姉フランシスカ・テレジア（レオニア）に

（レオニアはカン市の訪問會に入りて居りまして、姉レオニアに残つて居るのは此四通を除く外は、皆散逸されたのです）

三五 天國の本國へ（千八百九十三年八月十三日）

親愛なる小さき姉上様、

貴姉の望みは果されました（訪問會修院）に入つた貴姉は始めノアの船から放された鳩の如く、此世間の地に脚の置く所を見當らず、又特に愛し慕うて居る住居に還らうとして、永く漂ひ飛んで居られました。耶穌様は直ぐに貴姉の望みを遂させて下さいませんでしたか、終に鳩（レオニア）の啼聲を不憫に思されて、御手を伸して愛の聖櫃、即ち聖心の中に置いて下さいました。

あ、歡び此は靈的の歡びであります、私は最早此地上に於て、再び貴姉に御目に懸る

事は出来ませんから……又私は貴姉に心を打明ける事も出来ず、貴姉の聲を聞く事も出来ませんから、此地上は永住すべき所ではなく、通過すべき道中であるといふ事を知つて居ります、尙私等は本國の方に進み行く旅人であつて、其目的は天國でありますから私等兩人の進み行く道筋は、互に異つて居つても差支がありません、そして天國に着いたならば最早再び別れ離れる事もありませんから、共に俱に永遠に家庭の歡び樂みを味ひませう。私等が此逐誦が終つた後には、互に相語る事が多くあるであります。此世界に於ける言語は不完全不足であります、天國に於て私等が、相互に通ずるには、言語等が必要でなく、唯一の眼付のみで充分であります。そして私等の歡び樂みも、主の爲に別れ離れた爲めに却て多いであらうと思ひます。それ故

私等は其間私等は犠牲を献げながら生涯を爲ねばなりません。さもなければ修道生活は無効であります。或説教にも「彼の林中の樞の樹が四方八方から壓迫されて左右に枝を張る事が出来ず、其が爲に餘分に液汁を費さぬから、眞直に天の方に伸びるのである之と同じく修道生活を爲す靈魂も、規律は束縛せられた團體生活の修行であるから、之い……。

三六 父の死に就て

(千八百九十五年一月)

親愛なる小さき姉上様、

過ぎ去つた昨年、天國の爲に如何にも豊饒でありました……私等の最も愛し慕うて居つた慈父は、今人間の眼で見事な出来事のない所を視、天使等の妙なる音楽を聴かれ心には主を愛する者の爲に備へられてある報いを曉り、歡びつゝ之を享けて居られます。孰れ私等も時期が來て彼處に行くであります。此永遠の岸に向つて航海して居るといふ事を想ふのは、實に愉快な事ではありませんか、貴姉も慈愛深き父の御出發は、私等を天國に近づかしめるといふ事を想うて居られるのであります。最早我家族の半數以上

は、天主様を眼前に拜し奉るの福樂を得て居ります。そして此逐誦の地に残つて居る私等五人（父母兄弟の四人を指していふ）も程なく本國に着くであります。此世の短き壽命を想ふのは私等に勇氣を與へ、疲勞を耐へ忽ばさせます、そして『我等此處にては永存する住所を有せずして、未來のものを求む（ヘブレイク書）』のでありますから、此地上に於ての苦難は意とするに足りません。

姉上様、幼き耶蘇様を特に尊敬する爲に供へられた此月に於て、何卒此テレジアの事を憶び、テレジアがいつ迄も至つて小さき者であるやうにと祈つて下さい。私も亦貴婦が特に謙遜の徳を愛して居られるといふ事を知つて居りますから、貴婦の爲に同じ祈を致しませう。此兩人のテレジアの孰れが最も熱心でありませうか、また孰れが最も謙遜にして能く耶蘇様と一致し、最も忠實にして自分の所業を、主を愛するが爲に献げるでありますか……。主に犠牲を献げる爲に、微小な機會をも失ふてはなりません、修道生活に於ては微小な事とは一つもなく、何も彼も大なる直打がある、一本の針を拾ふにも、主を愛する心でなすならば、一人の靈魂を救ふ事さへを出來ます。嗚呼私等の行

爲に斯の如き高き價値を附け得る御方は唯耶蘇様のみであります。それ故我等は全力を盡して主を愛さねばなりません。

三七 善徳は行ひ易し……愛の時代……小兒に倣へ……

天國の入場券…… (千八百九十六年七月十二日)

親愛なる小さき姉上様、

貴婦の能く御存知の通り、私は一番季子でありますから、貴婦の御手紙も姉等よりは餘程後れて讀む事もありますし、また時々全く讀ませて呉れないやうな場合もあります。それで過日の御手紙も、若し直に私に渡して下さつたならば、前の日曜日に御返事を出す事が出來たのですが、私は之を手にしたのは此金曜日であつたといふやうな次第です。から、私の返事の遅くなつた事を何卒赦して下さい。

貴婦が仰せられる通り、寔に耶蘇様は我等の愛の眼付、愛の呼吸で満足して下さいます。私は完徳に進む事はまことに容易い事であると思ひます。乃ち耶蘇様の正義に訴へ

るよりも、御愛憐に靠る方が宜いといふ事を曉りましたから……。彼の小兒……親の意に逆ひ、命令を聞かすして、親に腹立たせた所の……小兒を御覽なさい。若し彼は拘戻た態をして隅に匿れるとか、或は罰せられてはと心配し、大聲で泣叫んだりするならば、母親は却て其罪科を赦しますまい。然し若し彼は、平伏して其愛らしき兩手を重ねお母様再び左様な事を致しませんから、何卒赦免して下さいと、謝罪つたならば、母親は必ず直様深き愛情を以て膝の上に抱上げ、其愛の爲に前の罪科を悉皆忘れて了ふではありませんか……。それでも母親は、此愛らしい小兒は機會さへあらば、再び同じ悪戯を爲すに相違ないといふ事を能く知つて居ります、然し小兒は復新に母の愛情に縋るならば、いつまでも罪せられる事を免れるでありませんか。

畏散の時代(舊約)即ち耶蘇様が御降生になる以前に、天主様はイザヤ豫言者の口を藉つて『母親は自分の乳兒を忘る、事あらんや、縦令母親が己の兒を忘る、事ありとも、我は汝を忘る、事なし(イザヤ書)』と申された事があります。あ、實に愉快な聖言ではありませんか、況して愛敬の時代(新約)に生れた吾々は、主耶蘇様の深き慈愛の御勸

奨に、如何して應せず、居られませうぞ……また如何して其愛憐厚き主を畏れませうぞ……。主は嘆かんばかりに我々の愛を切望して居られるのでありますから、吾々は主を愛の擒と爲ねばなりません。是は困難い事ではなく、些細な事についての犠牲のみで充分であります。嗚呼若し大なる犠牲、大なる所業を爲ねばならぬ必要があるならば、我等は實に憫むべき者でありませう、然し幸にも、私等が如何なる小さな行爲をなすに就ても、是を主を愛するが爲に行ふならば、それで主の聖心を慰め歡ばせ奉る事が出来るのであります。姉上様貴姉は、耶蘇様に對して斯様な小さな犠牲を献ける機會を、多く持つてお出でになりませう。貴姉の一日の生活は斯様な犠牲の繼續ではありませんか、貴姉は斯様な結構な寶を、自分の爲め、又哀れな罪人の爲に利用する事を知つて居られるといふ事を想うて、私は大に喜んで居ります。實際私等は耶蘇様が御自分の御血を以て購うて下さつた靈魂等は地獄の罰を免れる爲には我等の助力のみを待て居る所の靈魂等は、イエズ、様ご俱共に助けるのは洵に愉快な事ではありませんか。

若し我等の犠牲は斯く耶蘇様を愛の擒と爲す事が出来るならば、同じく我等の歡喜も

亦主を愛の擒と爲すことが出来ると思ひます。即ち其目的を達し、我等の心を耶蘇様までに高めて頂きたいと思へば、我儘勝手な利己的の樂みを求めずして、唯耶蘇様の事のみ我心を樂ましめ、此世間の道中に撒散らして下さる所の、多くの微小き歡喜をも主に献げさへすれば宜しいと思ひます。

姉上様、貴姉は私の健康に就ての消息を聞きたいと申越されましたから、唯今一言「私は少しも咳が出ません」と御答へ致します。これで御満足せられますか？……然し私は斯く申しましたも、天主様は何日何時とはなく、御自分の思召のまゝに私を奪ひ行かれませう。私は至つて小さき小兒となるやうに努めて居りますから、別に何の準備を爲なくとも宜しい、耶蘇様は御自身私の道中の旅費、天國の入場券等を總て拂うて下さいます。親愛なる姉上様、姉妹の中で末席を占めて居る一番弱き此貧しきアレジアを、何卒忘れて下さるな。さらば姉上様……。

三八 我死を歡べ

(千八百九十七年七月十七日)

親愛なる姉上様、私は貴姉に御手紙を差上げる事が出来るのを、大に歡ばしく思ひます。私は數日前から、最早此地上に於て慰めはありますまいと思つて居りましたが、然し天主様は私の逐謫の日數を、今少し延したいといふ聖慮があるやうで御座います。私は少しも之を悲しみません、私は自分の我意によりて、天主様の望みなり一分時も早く天國に昇らうとは望みませんから……此地上の唯一の幸福は、即ち私等の身上に對する總てのイエズス様の思召を快く従ひ努める事であります。姉上様、貴姉に對する主の聖慮は、實に立派であります。貴姉は若し聖人になりたいとお望みなさるならば、そは貴姉に取つて至つて容易い事でありますから、耶蘇様を御歡ばせ申し、自己を漸々と耶蘇様に近づけ、主と一致したいといふ目的のみを懷いてお居なさい。

さらば姉上様！、私が程なく天國に入ると思ふは、大に貴姉を歡ばせば宜いと思ひます。私は天國に行つて後は、是迄よりも深く厚き愛を貴姉に示す事が出来るであります。

う……。私等の天配なる耶蘇様の聖心の中に私等兩人が同一の生命を得るでありませう、そして尙私は永遠に貴姉の至つて小さき妹、幼きイエズスのテレジアでありませう。

従妹マリア・ゲレンに、

三九 小心に就て……巧みなる誘惑 (千八百八十八年)

貴女が私に氣懸に事を打明けなさらぬ以前、既に私は貴女の苦悶を豫想して居りました、私の心は貴女の心と一致して居りました。唯今貴女は私に教訓を願ふだけの謙遜を保持つてお居でになりませうから、私の感想を包まず申上げませう。

私は、貴女が従前の如に聖體を領ける事を中止たといふ事を聞いて、大に心配致しました。何となれば貴女は左様な事をして耶蘇様に御心配をおかけになりましたから……あ、實に彼の悪魔は、斯迄に非常に靈魂を欺く爲に狡猾なことよ……。親愛なるマリア様、あ、貴女は斯様な事をして、悪魔の目的を達せしめたといふ事がお分りになりませんか？、此兇惡なる魔鬼は、全く天主様に托したいと思つて居る靈魂を、罪惡に陥れ

る事が出来ない、といふ事を能く知つて居りますから、斯様な靈魂に對しては、自分自ら罪を犯して居るといふことを念はさせるやうに、いろ／＼と力を盡すのであります。これのみでも實に重大な事でありませう。其上悪魔は之にも飽足らず、尙ほ一層甚しい或一事を望んで居ります。即ち耶蘇様が愛しなされる所の一つの聖櫃……(乃ちマリア・ゲレンの靈魂)に耶蘇様が降臨されないやうにしたいのであります。彼は此聖櫃の中に入る事が出来ませんから、せめて此聖櫃から主を逐出して空虚となしたのであります。あ、此可哀想な心は如何なるでせうか……。悪魔は或靈魂に對して聖體拜領を止めさせるならば、彼の爲には大成功であります、が然し耶蘇様はお泣きなされるのであります。我小さきマリア様、此優しき耶蘇様が祭壇の聖櫃の中に在ますのは、全く貴女の爲め、貴女一人の爲。貴女の靈魂の中に休みたいといふ御望みの爲に、殆んど渴き燃わて居られるといふ事を深く想起しなさい。決して悪魔の云ふ事を聞きなされるな。彼を無視し、彼を遠ざけて、平安と愛なる耶蘇様を恐れなく拜領しなさい。

私は斯様に申上げると、貴女は「それはテレジアが私の缺點を知らないからである」

と思召されるでありませう。然し私は之を知り、何事も察しますが。私は貴女が恐れなく、其唯一の友なる耶蘇様を拜領になつてもよろしいと斷言致します。私は以前此氣遣ひの苦悶を感じた事がありました、私が大罪を犯したやうに想うて居る境合にでも、耶蘇様は度々聖體を拜領する恩恵を與へて下さいました。私は悪魔を追拂ふ唯一の手段は、此聖體拜領であるといふ事を曉りました。それで私は是を貴女に斷言致すのであります。さすれば悪魔は、斯く我等を苦め悩ますのは、唯自分の力や時間を空しく費やすのであるといふ事に氣附いて、直様我等は其儘にして去つて了ふのであります。

聖體の中に在ます耶蘇様の氣に入る事をのみ唯一の樂みとして居る心……貴女も斯様な心を持って居ると申されましたが……左様な心は聖體を拜領することが出来ないといふ程に耶蘇様に背く事は、到底出来ないであります。耶蘇様に背き、聖心を痛める所の事は信頼の缺ける事でありませう。

貴女の如き一番美しき血氣の旺盛な年月を、斯様な無益の「氣遣」の爲に費やさぬやう能く天主様にお祈りなさい。天主様の御榮光を顯はす爲に働く事の出来るのは、此短き

命の間のみであります。悪魔は之を能く知つて居りますから、我等をして無益の働きの爲に、其貴重なる生涯を費やさせたいと望み努めて居るのであります。親愛なる小さきマリア様、何卒貴女は此から後度々聖體を拜領しなさい。貴女の氣遣ひ氣懸の病を治さうとせば、此が唯一の良藥であります。

四〇『我弱點の外、誇る事を爲じ』

貴女は或權能なる王様から縁談を申込まれた小さき田舎娘、即ち自分は富裕な者ではなく、宮廷の風俗習慣を知らないといふ口實を以て、之の縁談を辭退しますが、然し權能なる王は、其貧しき事、無學なる事を、彼自身よりも能く識つて居られるのではありませんか……マリア様、若し貴女が虚無き者で、耶蘇様は萬事圓滿の御方でありませぬ。彼の一滴の水が太洋の中に注ぎ入るが如く、貴女も其虚無を、無量無邊の中に沈め、唯愛すべき御方のみの事を懐ひさへすればそれで宜しい。

貴女は自分の働きの結果を見たいと仰せられますが、其は丁度耶蘇様が貴女に之を隠

したい思召であります。耶蘇様は、我等から献げる善徳の實……聖心を慰め奉る所の實を御一人で眺める事をお歡びになるのであります。

貴女はテレジアが勇ましく熱心に、犠牲の道に進んで居ると想ひなされると、大なる間違でありませうから。私は至極弱き者で日々自分の弱き事を新らしく經驗して居る者であります。然し耶蘇様は喜んで次の金言即ち『我弱點の外誇る事を爲じ(コリント後)』といふ句の意味を曉る恩恵を與へて下さいます。嗚呼此恩寵は實に大なる賜物であります。私は之を貴女にも與へて下さるやう耶蘇様に祈ります。實際斯様な精心にのみ心の平和と安樂が伴ふのであります。そして自分は斯の如く貧しく弱き者であると曉つた場合に自己を反省する事は厭になりますから、唯愛すべき御方にのみ眼を注ぐやうになります。貴女はまた、完徳に達する爲に一の方法を教へて呉れと仰せられます。が私は唯「愛」といふ方法のみを知つて居ります。吾々の心は唯愛するが爲に造られたものでありますから、吾等は愛しましやう。私は此「愛」といふものを示したい爲に、時々代つた言葉を採す事がありますが、此逐諷の地に於て「始めもあり終りもある言葉」を以ては、到

底靈魂の響きを表し示す事が出来ません。それで此「愛」するといふ單一にして無二なる言葉で満足せねばなりません。然し哀れなる我心は、何誰に其愛を施しませうか……乃ち此「愛」を受けると充分なる方は誰でありませうか……人間はそれを辨へる事が出来ませうか……殊に其愛に報ゆる事が出来ませうか……マリア様、愛を辨へ得る御方は唯耶蘇様のみであります。私等が彼に差上げる愛よりも、限りなく勝れたものを報い返し得る御方は、唯耶蘇様のみであります。

從姉ヨハンナ・ゲレンに

四一 百倍の報い (千八百九十五年八月)

親愛なるヨハンナ様、

天主様は御妹マリア様をカルメル修院に招きなされたのでありますから。貴姉に大なる犠牲を求めなされました。されば貴女は主が『我を愛するが爲に、此世に於て父母兄

弟、或は家、財實に離る、者には、誰にてもあれ百倍の報を與へん(マルコ一〇ノ二九)といふ約束を爲された事を深く記憶しなさい。貴姉は耶穌様は愛するが爲め、少しの躊躇もせられずして、深く愛して居られた妹御と離れなされたのでありますから、耶穌様も貴姉に對して曩の約束を實行せねばならぬやうになります。無論此御約束は常に修道者に適用されて居りますが、然し自己よりも深く愛して居る子女を、主の爲に犠牲に供へる熱心なる親等の爲にも仰せられたのであるといふ事を、私は確く信じて居ります……。

靈魂上兄なる二人の宣教師に、(抄出)

四二 苦みを以て靈魂を救へよ (千八百九十五年十二月廿六日)

聖主は私等に對して、力の及ばない犠牲をば、決して御求めになれないのであります。然し聖主は時々私等の靈魂に持出し給ふ杯の苦味をば残らず私等に感じ覺わさせたい御望があります。此世に於て一番愛慕せらるゝこと其の犠牲を望み給ふ場合に、私等が

特別の特恩がなかつたならば、ゲツマニの園に於ける耶穌様に倣ひ、「我父よ、此杯を我より去れかし……(マテオ二六ノ三九)」と申さずには居られませんまい、が直に「然れど我意の儘にとには非ず、思召の如くになれ(同上)」と附加へねばなりません。イエズス様の即ち全能なる御方は總て我等の弱き事を分ち給ひ、以前切に御望みなされた此苦の杯を見て、憂ひ悲まれた、といふ事を想ふのは我等の爲に大なる慰藉となります。

貴師の務はまことに適れなものであります。何故なれば、聖主は特に貴師の爲に之を選び、尙貴師に持出す杯には、先づ前に御自身が御唇を御當になられたからであります。某聖人が申された如く「天主様は或者に與へられることの出来るのは、最も大なる榮譽多く(恩寵)を施與し給ふといふのではなく、此者から多く(犠牲)を請求せられるといふ事でありませう」と。耶穌様が貴師を特に愛する者の如取扱ふて下さるのには、貴師に今から苦難を以て靈魂等を救ふ事を始めさせたい聖慮であります。聖主御自身も御苦難御死去を以て人類を贖うて下さつたのではありませんか。貴師は耶穌様の爲に、自分の生命を犠牲に供へる幸福を熱望して居られるといふ事を、私は能く知つて居ります。

然しながら心の苦痛は其効果に於ては、實際に血を流すといふ事よりも劣つて居るので
 はありません。此心の苦痛は今から賜師の殉教であります、それ故私は貴師の務はまこと
 とに結構であると申すのは尤の事でありませう……此は即ち耶蘇基督の宣教師に適合し
 て居ります。

四三 最も苦しき犠牲 (千八百九十六年)

人々の靈魂を救ふ爲に、我々は俱共に働きましたやう。我等は彼等を助け、以て我愛を
 主に示す爲には、唯一日の如き極短僅き壽命のみを持つて居るのであります。此短僅き
 日の翌日は即ち終なき生命でありまして、其時には、主は貴師から犠牲として献げなさ
 った此樂み歡びに對して、百倍の報いを與へて下さるでありませう。聖主は貴師の犠牲
 の大なる事、また貴師が愛しなされる者等の苦みは、貴師の苦みを殖やすといふ事をも能
 く御存知であります。聖主も亦我等の靈魂を救ふ爲に、此苦痛をお忍びになりました。
 即ち主は御母君に別れ、十字架の下に立つて居られる汚れなき童貞の、苦の劍を以て其

御心を貫かれるのを御覽になつたのであります。然らば此聖き救世主は必ず貴師の母様
 慰めて下さるでありませう。私は切に之を望み、切に之を祈ります。

嗚呼此聖とき御主は、若し天國に於て貴師の爲に備へ給ふ榮光、貴師のお供を爲すべ
 き無数の靈魂等を、今貴師が主を愛しなされるが爲に離れた所の者等に見せて下さるなら
 ば彼等は貴師に離れる辛き犠牲の爲に最早立派な報いを得たやうなものでありませう。

四四 愛を求むる祈禱 (千八百九十六年二月廿四日)

私の望み願ひを悉皆含めてある次の短き祈禱文を、毎日私の爲に祈られん事を願ひま
 す。
 を慈愛深き父よ、今我は御子耶蘇基督、童貞聖マリア、諸聖人の聖名に因りて願ひ奉つ
 る、希くは我靈魂上の妹に主の愛の靈を充たして彼をして夥多の人々に主を愛し奉
 らしむるやう、御恩寵を下し賜はらん事をと。若し聖主は程なく私を迎へに來て下さ
 るなれば、何卒相變らず此祈禱を毎日唱へて下さい。私は天國に於ても此地上に居りし

時と同じく耶穌様を愛し、人々にも愛させん事を望みますから……。

四五 若し天に於て働けずば……

……私の望む事は、唯のことは天主様の聖旨のみであります。それで若し天國に於て主の榮光の爲に働く事が出来ぬとすれば、私は本國(天國)に行かずして、何時までも此逐諷の地に居りたいといふ事を、憚らず申します……。

四六 多く赦さる者は多く愛す (千八百九十七年六月廿一日)

天主様の限りなき御慈愛が、著しく貴師の身の上に顯はれて居りますから、貴師は深く其慈愛を感謝し、讚美せねばなりません。貴師は聖オグスチノ、聖マグダレナの如く多く愛し奉つた爲に多くの罪を赦された所の聖人を敬愛してお居でになります。私も彼等の痛悔殊にその愛深き大膽を愛して居ります。彼の聖マグダレナは、多くの人々の

前をも憚からず、自ら進み出で、深く愛する聖主の御足に觸れ、涙を以て之を洗ひなすつた事を想ふと、彼の心には耶穌様の聖心の限りなき慈愛の深さを曉つて居られたと思ひます。又聖主は喜んで之を御許しになられたのみならず、其柔和にして甘味なる聖心から豊かなる御恩寵を授けられ、彼をして黙想の最高點に達せしめたい聖慮で居られたといふ事が明に分ります。

あ、兄上様、私も主の恩寵に由つて、耶穌様の聖心の愛を曉つた後は、私の心から悉く恐怖を去らしめたといふ事を貴師に告白致します。そして私の罪の思出は、私を謙遜ならしめ、弱き自己の力に便る事ならぬといふ事を自覺させ、尙其上に深く天主様の慈愛を感じ憶記させます。自分の落度を小兒の如きたのもしい心を以て、愛の燃ゆる爐の中に投入れるならば、いつも其罪は残りなく焼盡されないのでしようか。

私は多くの聖人方は、自己の罪科を償ふ爲に、恐ろしい苦業を爲されて一生涯を過ぎられたといふ事を知つて居ります。然し耶穌様は『我父の家に住所多し……(ヨハネ)』と仰されたではありませんか、さらば私は主に教へ示して頂いた道を辿つて行きませう、

そして何事に就ても自己の事に頓着せぬやうに努め、主が私の靈魂の中に行うて下さる事も、總て皆主にお任せ申しませう……。

四七 萬事を抛ち小供の如き精神で、歡ばしい眞理 (千八百九十七年)

此地上に於ては總て皆變りませんが、依然として變らないものは唯一つあります、是は即ち天主様が御自分の愛する友に對しての態度であります。聖主が十字架の旗幟をお樹てなつて以來、人々は皆此旗蔭で戦ひ、此旗蔭で勝利を得ねばなりません。彼のテオフアノベナル師が仰せられるには『凡て宣教師の生涯は十字架に満ちて居る、又眞正の幸福は苦みに在る、そして生きんとすれば是非死なねばならぬ』と。

親愛なる兄上様、貴師の布教の始まりは、十字架に由つて印されたのであります、お歡びなさい、耶穌様は人々の靈魂の中に、御自分の御國を堅固に樹てなされる爲に、立派な説教を以て爲さるよりは、一層の苦難と迫害を以て爲さるのであります。貴師は自ら「未だ言を云ふ事の出来ない嬰兒の如き者である」と仰せられますが、貴師と同日に

司祭となられた彼のマゼル靈父(宣教師として支那に派遣)も、同じくものを云ふことの出来ないものであります、然し彼は最早勝利の「バルマ」をお受けになりました。あ、天主様の御考へは、我等の考へよりも如何に眞に勝れて居られます……。此若き宣教師は派遣せられた地を踏まぬ中に、早や殺されたといふ事を聞いて、私は彼に祈りたいと云ふ氣からして彼は天國に於て殉教者等の列に加はるのを見るやうな心地が致しました。無論彼は人々の目には殉教者といふ名義を受けませんが、名譽の缺けて居る此立派な犠牲は裕かな効果の點に於ては、信仰の爲に殺された者の犠牲よりも決して劣つて居りません。至聖なる天主様の尊前に出るには、至つて清き者でなければならぬならば、天主様は必ず至つて正義の御方でありませう。多くの人々が畏れて居る所の主の正義は、私に取つて却て歡びと信頼心を與へます。正義であること云ふことは管惡人に對して厳しき態度を取るといふこと計でなく、又正しき心ばせをも認めること、而して善徳に報いを與へるといふことであります。私は天主様の正義にも慈愛にも依靠ります。主は優しき御方でありませうから、詩篇にも『主は愛憐と恩恵に満ちて罰し給ふ事遅く、仁慈ゆたかに在

ます。主は我等の弱き事を識り、我等の塵埃なる事を念ふて下さるから、慈父が自分の小兒を慈しむが如くに、我等を愛憐んで下さるのである(一〇二、八)と。あ、親愛なる兄上様、ダビデ王の此慰安を與へる立派な句を聴きますと、如何して主の御愛憐を疑う事が出来ませうか……、貴師の如く萬事を犠牲に供する程までに主を愛し、人々に主を辨へしめ愛せしむる爲に、家族と故郷を離れたのみならず、自分の生命をも献げたいと望む者等に、天主は如何して彼等の小供等に御國の門を開けずに居られませうぞ……。イエズス様は此愛よりも大なる愛がないと仰せられたのは實に御尤の事ではありませんか如何して主は愛に於て譲りませうぞ……、また主を愛する火に燃えて居る靈魂をば、如何して煉獄の火で清める必要がありませうぞ……。

私は今自分の私が感想を云表す爲め、否、寧ろ充分に云ひ表はさない爲に種々の句を並べました。私は貴師に申上げたかつたことは唯次の事のみでありました。私の考へでは、凡て宣教師は其希望と意思に於て既に殉教者であるから、彼等の中に一人も煉獄に陥らない筈であります。

私は天主様の正義に就て斯う思うて居ります、私の道は全く愛と信頼とであります。それで此慈愛深き友なる主耶蘇様を畏敬れる所の靈魂等に就ては、一向合點がゆきませぬ。私は完徳に達するのは至つて困難しい事であるやうに説いてある書籍などを見れば私の弱く貧しき精神は直に疲れて了ひます。それで斯いふ場合には、頭を悩め心を乾かすやうな斯様な學者振つて書籍を閉ぢ、代りに聖書を披きますと、僅か一言一句でも私の靈魂は無限の慰めが與へられ、何かも明かに曉る事が出来、完徳に達し易いやうに見えます。即ち完徳に達するには自分を無慮者であると認め、小兒の如く我身を主の御手に委ねさへすれば宜しいといふ事が分ります。そして之は嘗私のみならず、偉大なる靈魂、高尚な精神を有つて居る者であるならば、私が分り兼ね、又行ひ難き曩の立派な書物を残して、甘んじて我は小さき者となるであります何となれば、「獨り孩兒等、又彼等に似て居る者のみ、天國の宴に列席するを甘んじ喜ぶ事が出来るからであります(一九ノ四) 幸に天國には多くの住所があります。若し天國には私の書く事の出来ないやうな道曉る事の出来ないやうな住所のみであれば、私は到底天國に入る事が出来ませぬ。

四八

寶のある所心も亦在り

(千八百九十七年七月十三日)

貴師の靈魂は此地上の慰め樂を慕ふには餘りに偉大であります、聖福音書にも「汝等の寶の在る處には、心も亦在るべければなり(ルカ一四二)」と書てありますから貴師の生きて居らねばならぬ所は天國であります、貴師の唯一の寶は耶蘇様ではありませんか、貴師の心も耶蘇様と同じく柔和なる救世主は夙くから貴師の不忠をお忘れになり天國に居られますから、たゞ聖心を歡ばす所の完徳に達したいといふ貴師の希望のみを記憶てお居でになります。何卒貴師は御自分の望みに隨ひ、耶蘇様の足許に止まらずして、其御腕の中に入つて下さい、其處は即ち貴師の住むべき場所であります。そして私は此度の貴師の御手紙を拜見して今迄よりも一層明に次の事を曉りました。即ち小さき妹が迎つて居る道と違ふた道を取つて天國に入られる事は到底貴師に不可能事であります。私は全く貴師と同じ意思であります、即ち耶蘇様の聖心は、敵が犯す所の大罪よりも御自分の友が陥る無数の微少な過失の方を深く悲まれるのであります。然し私は、耶蘇

様が「我手にある傷は、我愛する者の家にて受けし傷なり(ザカリヤ書)」と仰せられるのは、唯主を愛する者等が過失を落つる事が習癖となつて、少しも主に謝らないといふ場合にのみ限るのであると思ひます。耶蘇様を愛し、また微小の罪に陥るも其都度耶蘇様の御手の中に入つて謝るならば、耶蘇様は却て大に喜ばれるのであります。彼放蕩息子之父が下僕等に申した如く、耶蘇様は天使等に向はれて「其手に指輪を箝めよ、與に共に樂まん(ルカ一五)」と仰せられます。嗚呼兄上様、耶蘇様の慈愛深き聖心は如何にも僅少しか人々に知られません。無論此寶を得やうと思へば、深く遜だつて全く自己を無慮者と認めねばならぬのですが、不幸には多くの人々は之を行ふ事を厭うて居ります。

四九

我を天國に惹くものは

(千八百九十七年)

私を本國なる天國の方に惹くものは、主の御招きと、私が非常に熱心に望んで居つた通り、漸く主を愛し奉る事が出来るといふ希望と、天國に於て永遠に主を讚美すべき無数の靈魂等に、主を愛せしむる事が出来るといふ確信であります。

私は天死させて下さい等といふ事を一回も、主に願ふた事がありません。斯様な事を願ふのは卑怯であると思ふて居りました、然し主は私に幼年の時から、私の此世の生涯は短きものであらうといふ事を心の中に確信を與へて下さいました。

私等兩人が天國に行くには、同じ道を辿らねばならぬといふ事を能く曉つて居ります。そして此道は愛の伴うて居る苦難の道であります。私は港に着いたならば、此世の荒れた海上を、如何に航海せねばならぬかといふ事を、貴師に傳へる積であります……丁度父親が我を深く愛して呉れる、また危険の時には我を一人のまゝに遣して置かないといふ事を知つて居る小兒の信頼と愛とを以て……。

あ、私は耶蘇様の聖心の愛深き事また、耶蘇様が貴師に對して望み給ふ事を如何にも激しく貴師に知らせたいのであります。私は此以前貴師から頂いた手紙に就て大に喜びました。貴師の靈魂は天主様のお招きに應じて行く爲め、畏敬の困難な梯子を登らず、愛の昇降機で行くと仰せられました、それでいよく私の靈魂の兄妹であるといふ事が分りました。貴師が耶蘇様と親密に一致する事は、困難しいやうに感じて居られます。

が、私は別に之を不審に思ひません。實際斯様な一致は到底一朝一夕では出来ません。然し私は斷言致します、私は貴師に此愉快な道を辿らせる爲に御手傳ひする事は私が此脆く死すべき肉體を脱してから後は、却て今日迄よりも一層多く力を盡す事が出来ます。そして間もなく貴師は、聖オグチスノの如く、愛は自己を引く所の分銅であると申されるであります……。

五〇 死を歡ぶ理由 (千八百九十七年七月廿六日)

貴師が此簡單なる手紙をお讀みになる時には、最早私は此世に居らぬかも知れませんが、私は將來の事は知りませんが、我天配は今確に戸の外に待つてお居でなされるといふ事を斷言致します。此逐諷の地に居續けるには、如何しても一の奇蹟がなければなりません。然し此は無益の事でありませうから、耶蘇様は左様な事を行つて下さるまいと思ひます。兄上様、私は死ぬる事を何よりも大に歡びます。左様……私は大に喜ぶといふのは此世の苦難を脱れるといふ爲ではありません。愛に伴ふた苦みは、此涙の谷に於ては唯一

の望み慰みのやうに思ひます……。私が死を歡ぶのは、全く天國に於ては此世に居つた時よりも多く、私の愛する靈魂等の爲になることが出来ると思ひますから……。私は毎時耶穌様から甘やかされた小兒の如く愛せられました。無論耶穌様の十字架は私の幼年の時から私に伴うて居りましたが、いつも此十字架を非常に熱く愛させて下さいました

五一 最も必要な一事

(千八百九十七年八月十四日)

此世に於て最も必要な事は唯一つであるといふ事が、今や天主様の尊前に出やうとして居る時に、一層能く之を曉りました。其唯一の事といふのは、即ち唯自己の爲め、又被造物の爲ではなくして、天主様の爲のみに働くといふ事でありませう。耶穌様が貴師の心を残らず占領したいと思召されます。それで貴師は其尊き聖慮に應じたいと思ふならば、多く苦まねばなりません。其代り貴師が天國に入られた時の大なる歡び樂みは、如何程であらうか到底申述べざる事が出来ませう。

私は死するのではなく、終なき(生命)に入るのであります……。私は此地上に於て貴師に申上げられない事は、天國から曉させませう……。

我天職を示せし天使よ!

幼きイエズスのマリ、アンズ童貞女は、此幼きイエズスのテレシアの自叙傳に感化されて、リジュエのカメル會院に入り、千九百年修院長となり、千九百九年十一月此テレシアの如く愛熱に燃いつゝ立派な死を遂げられた。此詩は彼が修院に入られし後、感謝の爲に歌はれしもの

我は十歳の春であつた。

私しの眼には此人世の花や香や歌に充ちて居た。

その歡び樂みを味ひ、

その花や香を、 摘取らんぞ望んで居つた。

我は世に愛せられ、褒められ、窮屈なく、

思ふまゝ、安樂の生活を送り

樂しき家庭を作つて、その皇后とならんとは、

其頃の我理想であつた。

X X X X X X X

斯して我は廿歳となり、漸く世間を知つた。
悲しい事には、我理想は大なる迷夢であつて、
世間は水の如く清く涼しい樂園ではなく、
絶えず心を苦める毒のみであつた。

されど、我は尙迷ひの夢をさめずして、

「あ、我慕ふ幸福よ、曇りなき歡樂よ！

汝はたゞ無意味にして、幻の如きものが、

我は汝を何處に尋ねべきか之を告げよ！

世間は虚しき歡樂に酔うて居る時、

我はその歡樂を捉へんとして急ぎ行き、

彼をながめ、彼に觸れんさせば、

あゝ、彼は幻の如く、遠く逃げ去る、

世評、流行に耳を傾け、虚榮を逐ひ、

人に諛び、人を諍り、泣きつ笑ひつ、

空しく過せし我心の中に、

残りしものは何？……唯虚無のみ。

後日……後日と過せし、悲しき夕を想へば、

嗚呼、此地上は唯旅人の道中の如きものである。

後日……後日「死」は來りて年月を斷ち人生を奪ふ、

儂なき一時の逸樂に残るものは何？……。

かくて我靈魂は一段高き方面に飛び、

此下界の總てが空しきものなる事を感じた。

眞理の神は、時々我靈魂を照した。が、

我はその光りを畏れ避けて居つた。

何者の聲か我が心にかく囁いた、

「來れ、我許に來れ、我は汝の限りなき望を満たし、

比ひなき歡樂を汝に與へん、

我のみ幸福の本来なれば……」と。

されど我は慈悲深き此招きに應ぜずして、

何！横柄なる我は修道女の衣を着らん？、

何！我儘なる我は、他人に服従する？、

如何せん、我傲慢なる精神は、之を受けなかつた。

X X X X X X X

我書架の一隅に隠るゝテレシアよ！

「小さき花」なる汝の自叙傳を、故ら其處を棄置いた。

我は之を手に取り開き見たりすぐ閉ぢた、

汝のうつくしき肖像さへも見ずして――。

何！、之はつまらぬ一修道女の傳である、讀むに及ばむ。

之を讀めば、或は……その模範が我心を惹くかも知れぬ。

我は彼等の如き狂者に倣ひたくなむ。

修院の如き裡に我身を葬りたくない、と。

我は斯の如き思念を懷て居つた。

「小さき女王」よ！願くば之を赦し、愛を以て報へ、

テレシアよ！汝は最早我が重き世の鎖を斷つた。

この空しき世間より我身を離れしめよ。

汝の勸奨によつてか或人は我に、

汝の自叙傳を讀む事をすゝめた、

我は大に感動して、縋いた、スルと我疑心が解け、

前に懐いて居つた我理想は、悉く迷ひなりし事が分つた。

我は、汝の幼き時より、信仰と光明と、

真理の中に生きて居られた事を知つて、大に慚ぢた。

あゝ、悲しい事には我は二十歳になる今日なほ、

愚にも偽りと暗闇の中に生きて居る、

我は、我靈魂の幸福を、満足させ、

逸樂の中に探して居つた事を慚らした。

汝は此幸福を、幼き時より、苦難の中、

己を棄て、己を輕んずる中に見附けて居られた。

我は漸くにして、鳩の如く白く清き汝が、

軽く圓を超へて、カルメル修院に入るを見た。

その刹那我眼には、厚き被布が落ちて、

強く、天の光線に照された。

我疑念は此柔かな光線によつて消へ失せ。

我靈魂の渴望して居つた幸福が、幽かに見えた。

そして、その柔かな光線の中に、我歩むべき道を知つた。

主は我を カルメル修院内に招いて下さつた。

我靈魂は、聖籠の火花に燃やされ。

我靈魂は、天上のはげしき愛を納め得ず、

歡喜のあまり、我小き胸は鼓動し、

熱き涙が、瀧の如く流れ落ちた。

此恩寵饒かな日より最早七年、夢の如く過ぎた。

その間我靈魂は、毎時溢る、許の幸福を得た。

此幸福は真正にして、之に勝るものが無く、

絶えず 新しき幸福である。

「小き女王よー汝が住居せし修院の中に、

我を引寄せ給ひし事を、深く感謝する。

我は總ての歡樂を得るよりも、戦ひ歌ひつゝ、

倒れんと望む此競争場を深く愛す。

我は粗き毛織物の修道服を、

美しく装ふた高價の服よりも深く愛す。

我は性癖を犠牲にする柔順の徳を深く愛す。
我爲に天に寶を積む、貧窮の徳を深く愛す。

あゝ、未だ世間に彷徨ひて、世の歡樂に。

満足する事の出來ぬ靈魂は 數多ある。

天使なるテレシアよ！願くば永遠の幸福を味はせる。

此自叙傳を以て、深き神祕を彼等に示せ。

愛すべき女王テレシアよ、汝の清き王位の許に、

汝の如く「小兒の道」を歩みて生活し、

汝の如く愛の犠牲者となりて死すべき、

多くの英雄豪傑の侍臣を集めよ。



其 死 後

カルメル會修院では、修道女の中誰か死者があると其者に就ての簡單な書翰を認め、之を他のカルメル會修院に通知するの院則がある。幼き耶穌のテレシアが死去せられた時には、丁度彼女が修院長の命令に由つて書いた自叙傳、即ち「小さき花」があつたから、修院では之を書翰の代りとして印刷に附し、佛蘭西に在る各カルメル會修院に送り、尙數名の靈父と信者等にも送つたのである。所がテレシアが生前「我は毎時主に愛のみを捧げたから、主も亦我に愛のみを以て報いて下さる」と言はれたが、此言葉は全く的中して、此「小さき花」を讀んだ者は皆深く感動してテレシアの方に心を惹かされるやうになり、其時より人々は彼女を指して「愛らしき聖女」とか「心を奪ふ者」とか、呼ぶやうになつた。

薔薇の花の雨

又彼女が現世を離る、前「我は死して後薔薇花の雨を降らさん……」と、即ち自分が天國に昇つて後は、地上に在る人々の上に天主の御哀憐を乞ひ、絶えず主の恩恵を呼下さ

んどの言葉も、彼女の死後間も無く其約束が實行されるやうになり、薔薇の雨が徐々に降つて来た。

先づテレシアの『小さき花』を読んで其優れた言行を想ふ者は、自分は善に導かれ自然に徳の方に引かれるやうに感じ、或者は種々の方面より彼女の傳達を乞ひ、中には彼女の遺物を修院に請求する者もあつた。そして最初の内は人々が靈魂上肉身上テレシアより受けた恩恵は、さのみ公に響かなかつたが、千九百二年(死後五(五年目))と其翌年に二人の重病者が不思議の功験を得てより俄に其名聲が高くなつたのである。

大腫物の全癒

其一人はレン市に住居するドボスといふ夫人で、十年前より左部の脇腹に大腫物が生じ、爲に起臥にも不自由を感じ、果ては大手術を爲ねばならぬやうになつた。然し夫人は手術を爲すことを好まず、靈父の勧めに従うてテレシアに九日間の傳達を熱心に願うて居つた。スルと奇妙にも九日目に當つて、さしもの重き病氣も急に全く痕跡もなきまでに治癒し、今日に至るまで同じ病氣に罹らずに居る。尙此夫人は感謝の爲め

度々テレシアの墓に參詣し、其後も處々特別の恩恵を受けて居る。

胃腸病膜腹炎等の全快

今一人はジョアンナと呼ぶ植木屋の妻で、永く以前から胃腸を患うて居つた上更に腹膜炎と蟲様垂炎とに罹り、終に有名な外科醫の治療を受くることとなつた。然し醫師が手術に取懸つて少しく其患部を切開した所が、案外にも多量の膿汁が出で、爲に續いて手を下さすことも出来ないやうになり、却て死期を早めたやうに見えたので、直に手術を中止して靈父を迎へた。此靈父は數ヶ月前今のトボス夫人がテレシアの傳達によつて奇蹟を受けた事を知つて居つたから、先づ病人に終油の祕蹟を授け、罪惡の赦免を與へて後、同じくテレシアに傳達を願ふやう勧めた。所が病人は其勧めに従ひテレシアに特別の保護を願ふたが、二時間も持たぬと思はれて居つた危き生命が奇妙にも漸々と経過が良くなり、數日後には拭ふが如くに全快した。

其後間もなく此薔薇の雨が佛蘭西より降り始めて歐洲全體に亘り、續いて亞細亞、阿非利加、亞米利加と順次世界中に降りそそぎ、恩恵を受けし者の數も夥しくなつたので、

千九百七年始めて公に此等の事蹟を書綴つて『薔薇の雨』と題し『小さな花』の中に其一章を加へることゝなつたが、自來一層此雨が烈しくに降つて來た。即ち

奇蹟を行ふもの

千九百八年には英國に於て、青年の一人病者が奇妙の功験を得たので、英國の新聞紙は之を詳細に報道し、テレジアを指して『奇蹟を行ふ者』と叫んだ。

恩祐

次に千九百九年五月、西班牙國タレガ市のトラピスト修院のマリー・ポーロといふ修士は、初期の胃癌に罹つて永く病床に苦んで居つた。兎角する中に何も食事することが出来ず、わづかに器械を用ひて滋養物を胃腸に送つて居つたが、豫てテレジアの傳達を乞ひ、リジュの修院に向け遺物を願うて居つたのが着いたので、其日テレジアに對して深き信頼心を起し、自ら勉めて牛乳を飲まんと決心し、其遺物の中より更に一片の糸を取り、之を約四合の牛乳の中に入れて飲んだが、不思議にも何の苦痛もなくして嘔下することが出来、同時に非常に快き感覺がしたので、思はず奇蹟々と喜び叫び

つ、直に起つて病瘳を出で暫時戶外を散歩した。そして次の食事時間には芋野菜等他の修士と同じ物で食事をしたが、最早何の異状もなく、全く治癒したのであつた。又此修士は其翌年山を拓く爲に用ひて居つた火薬が急に爆發した際、テレジアの恩祐によつて奇妙にも危ふき生命が助かつたのである。

九日間傳達を願ふ

同年七月二日、カン市の訪問會に入つて居るマリア・ベニグスといふ修道女が食道の病氣に罹つて苦んで居つたのが急に全快し、西班牙國の次に葡萄牙國にも薔薇の雨が降つて、或病者がテレジアに九日間の傳達を願ひ、脚部の大傷が奇妙に全癒した。又其年十月、佛蘭西のメヌ・エ・ルアル縣の某司祭の賄方が、胃の狭窄の爲に小しきも食事を取ることが出来ないやうになり、遂に手術を受けたが其結果却て益々悪くなり、家族等は最早葬儀に就ての手續を爲さんばかりであつたが、最後に一縷の希望と信頼とを以てテレジアに九日間の傳達を願ひ始めた、所が奇妙にも其日より何の薬餌も飲まないのに漸次と快方に向ひ、九日の後には全治した。

十一月に當つて、マダガスカルのベルマンといふ童貞が或家を訪問した所が、憐れなる母親が死に瀕つて居る病児の側に泣き伏して居るので、種々と慰めた上病児に洗禮を授け、尙テレジアの繪を與へて其傳達を乞へよと勸めて歸つた。所が翌日其母親が童貞の許に尋ね來て、『昨日頂戴した繪と同じ婦人が昨夜小兒に現はれ、携へて居られた白い服を小兒の上に置いて其姿が見えなくなつた。私は驚き不審に想うて居ると、小兒は恰も夢より醒めた如くになり、直に起つて無病の小兒の如くなつた』と。

負傷の全治

十二月の末頃、カナダのトラピスト修院の一修士は自分の帯に附けて居つたナイフを以て、過つて膝頭の所に深さ二寸五分許の大負傷をした。醫師も悪い所であるからと云うて首を傾けて居つた。然し其修士は修院長の勸めに従ひ、テレジアニ傳達を願ふた所が、其夜テレジア童貞は白き花の冠を被り、白き服装をして現はれ、微笑みながら其修士の側を通り過ぎたが、同時に烈しき疼痛も急に無くなり、全く治癒して僅に其傷痕を止むるのみで、翌日には平常の如く働く事が出来た。

右は千九百九年に於ける薔薇の雨の中の數滴に過ぎないのである。其翌年には自叙傳を讀む者も益々殖む、薔薇の雨も一層烈しく降つた。また、テレジアが嘗て『私は若し此愛の道を以て汝等を惑はすならば、天から早く現れて歩む事を許さぬから……』と約束されたが、是に就て斯いふことがある。

五百フランの紙幣

伊太利國ガリボリーのカルメル修院が、千九百十年一月頃其經濟が非常に窮迫に陥り、最早日々の食物にも差支へるやうになつた。然し修女等は孰も熱心なる信仰を有ち、少しの不平も鳴らさず、天主の恩祐を希ひながら能く之を堪へ忍んで居つた。そして一同がテレジアの『小さな花』を讀み、彼女の傳達を乞ふ爲め三日間の祈禱をした。所が三日目即ち一月十五日の眞夜中、何處からともなく獨りの修道女が現れて、修院長カルメラ童貞の睡眠を覺まさせ、驚き訝る院長を金庫の在る室に導いた。金庫の裡には一錢の金も無く唯諸所へ支拂ふべき請求書のみであつた、其修道女は携へ來た五百フランの紙幣を其處に置いて去らうとするから、院長は益々驚いて其處に跪き、

此修道女の姿をして居られる方はカルメン會の改革者なる聖女テレジアであらうと思ふたので、恭しく「母様」と云ふと、其修道女は天使的の調子を以て、「我は天主の婢なるリジユのテレジア童貞である」と答へられた。修院長は感に打たれて其童貞を仰ぎ看ると、其服装は白き薄絹を纏うて居られる如く、其顔容は美しく神々しく輝いて居つた。やがて其童貞は立ち歸らうとせられるので、修院長は天上の童貞女なることをも打忘れ、修院内の勝手も分らぬであらうと思ひ、一寸御待ち下さい、道を御迷ひになつては……」と云ひながら先に立つて案内せんとすると、テレジアは微笑みながら、豫て多くの人々に感動を興へた言葉を證明するが如く「私の道は確實である、之を歩んで誤らなかつた」と。テレジアが紙幣を携へて現れたなど、は餘りの奇妙であるから、司教は斯る事に就て最も反對する或者を選び、特に厳しき調査を命じた。所が此人が嚴重に調査した結果、愈々事實なることを確め得たので大に感動し、テレジアに對する熱心な崇敬者となつた。またテレジアは其後も度々此カルメラ童貞に現れ、種々の方法を以て此ガリボリーの修院を援けられたのである。

書翰雜筆の調査

ペニョとリジユの教區を管轄して居られるルモニエ司教は羅馬禮部聖省の勸告(三月五日)によつて其教區内の信者に對し、テレジアの生前認められた書翰雜筆類に就て調査の必要があるから、之を所持する者があれば通知せられよとの千九百十年四月四日教書の布告を發した。爲に其教區内にテレジアの名聲が一層高く響き、直様一の委員會が設けられて此等の書類を蒐集し、委員長は其れを持つて羅馬の禮部聖省に出頭した。そして七月に司教はテレジアが福者の冊簿に列せられるやう最初の調査委員會を設け、其發會式が(八月三日)テレジアの完徳の噂に就ての調査の神學豫備校の聖堂内に舉げられ、數多の神學生と、折柄黙想會の爲に集つて居た多くの司祭等とが之に與つた。そして司教自ら委員長となり八月十二日より委員の調査報告が始まりました、千九百十年九月六日に其遺物を保存するの目的でテレジアの屍體を發掘すること、なつた。

最初の屍體發掘

此屍體發掘の事は、人々の集り騒ぐのを防がんと秘密にして居つたのであるが、その

日には誰知るとなく數百の人々は朝早くよりカルメル會修院の墓地に集り時刻の來るのを待つて居つた。司教は司祭等や委員等と共に一種無限の感に打たれつゝ、棺を發掘して其中を開いた。スルと強き薫の薫香が發したので、其傍に居つた者等は大に感動した。そして其屍體は、彼女が生前自分の希望であるとして『我屍體は普通の人と異つた事がなく、唯骨のみ残る』と云うて居られたが、其通り全く骨のみとなつて居つた。獨り奇妙にも屍體と共に棺内に納めてあつた月桂冠が……之と同時に造つて修院の祭壇を飾つてあつた月桂冠は、其後間もなく枯れ果て、しまふたが、此棺内の月桂冠は三十年前に葬つた時のまゝ、尙青々として色も褪せず形も崩れて居なかつたのである。

また此屍體發掘に伴うて數多の奇妙な事があつた。其中の二三を挙げますと、

奇妙の幻し

此テレジアの善徳を深く慕ひ、彼を尊び敬うて居つた信仰厚き某婦人は、豫てテレジアの屍體發掘の擧式に與からんと待望んで居つた。そして斯くも早く秘密に行れしとは夢にも知らなかつた、所が其當夜、即ち九月六日の夜、彼は奇妙なる或幻を見た。後

彼は此幻の模様就て斯く語つた。

「私は其夜奇妙なる幻を見た。それは大勢の人々が、誰か立派な人の凱旋を祝するが如く、又莊嚴な葬式が行はれて居るやうであつた。其時私は不圖美しく輝いて居る一人の若き童貞女を見た。その顔は強き光の爲に明かに見分け兼ねたが、その服は雪の如く白く、黄金の如く眩き許りに光り輝いて居つた。そして其童貞は臥しつゝ、死骸の卷衣から半身を現はし、小兒の如く無邪氣に、また愛らしき微笑をしながら手を伸へて私を抱き、愛深き接吻を爲られた。私は其時何とも云へぬ神々しい感に打たれ、丁度深い海の中に、靜かに沈んで行くやう、また天に於て美妙の樂みを享けるやうで、全く形容が出来ない。ことに其時彼は何の言葉をも發されぬが、その全身より放たれる温かき慈悲の光によつて、聖人等は天國に於て如何程に深く限なき愛の寵なる主を愛せられるか」といふ事を悟つた、無論私は、此若き童貞女は誰人であるか、また如何なる理由で臥して居られたか、また何故凱旋式の如く葬式の如くに感じたか一切不可解であつたが、それでも尙いろゝと考へ合せて居つた。スルと三日の後「ラ

クルワ」新聞にテレジアの屍體發掘の記事が詳細に載つて居つたので、一時は驚いたが、直に今の幻の事を憶出して自分に現はれた童貞は、此テレジアに相違なしと感じ、感謝の爲め忙いでリジユの修院を訪問した。

靈魂上の案内者

又テレジアは同じ夜、西班牙國のカルメル會修院の童貞女にも現はれたのである。此童貞女は以前テレジアの自叙傳を讀んだが、其時はさのみ感興を惹かなかつた。然し平素自分は今天國に居られる修道女等の中にも最も倣ひ易き一人の聖女を見當りたいと思ひ、努めてカルメル會修院の聖女等の事蹟等を調べて居つた、が何うも自分に適當な聖女が見當らない、然し何故か益々其望みが烈しく起り、何時か必ず見當るに相違ないごまで信するやうになつて居つた。スルと丁度九月六日の夜、夢幻の如き中に棺に臥して居る若き修道女の姿を見、同時に異様の感に打たれつ、其修道女に近づくと、將に塵埃に歸らんとする屍體が居ながら天使のやうな愛らしい眼を開いて、懐しげに自分を見た、そして其時何處からともなく天使の如き聲がして「汝の探し求め

て居る靈魂上の案内者は、此方である」と。彼女は其後、間もなく此時に現はれた方は幼き耶蘇のテレジアなる事を知り、尙自分の受持靈父からもテレジアの自叙傳を與へられ此方に倣へよと勧められたので、終にテレジアを完徳に導く自分の案内者とし、テレジアの踐まれた小さき道を歩むやうにと努めるやうになつた

大學講師の慰め

尙又永く以前よりテレジアの德行に深く感じて居つた或大學講師は、九月六日に行はれたテレジアの屍體發掘の事を知り、其屍體は普通の人の如く唯骨のみ残つて居つたといふ事に就て、多少遺憾に思つて居つたが、やがて心の裡に「之は私の仕事服を脱いだのである、私は今永遠の祭日の服を持つて居るから、仕事服は如何にならうとも差支がない」といふ囁きを感じたので、其講師は大なる慰藉を得、續いて、若し此屍體が其儘に残つて居つたならば、之を遺物として各國に頒け送ることが出来ないが、斯く骨のみとなつたのは其肉體も亦靈魂と同じく全世界に行渡り、地上の人々を恵む事が出来る、之は天主様の深き攝理である」といふ事をも悟り得たのである。

司教の證明

次に彼の調査委員會では、曩にカリポリにあつた奇蹟に就て、今一應調査するの必要を感じたので、委員等は態々其地に行つて詳細に調査した。が其結果疑を容れる餘地もない程確實である事が分つた。そして此修院では、滿一年を経過した翌年の一月十六日にも亦同様の奇妙な事があつた。それは此修院の童貞女等は、テレジアに對して三百フランの金を得るやう熱心に其傳達を願うて居つた所が、誰も持つて行く事が出来ない確な證據があるにもか、はらず、奇妙にも其夜金庫中に、封蠟で嚴しく緘ちてある状態の中に三百フランの金が入つて居つた。此事に就ては其隣教區のアタナジオ司教が立派に之に證明して居る。尙此司教は其後リジュに往つて、テレジアの道は確實である、彼女之を歩んで誤らなかつたといふ事を反覆して證明せられた。

又テレジアの道の誤のないといふ事を證據する爲に數多の例證があるが、今一の例を擧げて他を省くこととした。

新教牧師の歸正

スコットランドのグランといふ新教の名高き牧師が、小さきテレジアの自叙傳を通覽するうち非常に感ずる所ありて、彼の傳達によりて千九百十一年四月廿日に歸正し、熱心な公教信者となつた。彼の云ふには、テレジアは自分に現はれ『私の小さき道を歩め、之は確實唯一の道である』との告を受けたと、そして此事が英國の新聞紙に公表されてある。後に彼が其夫人と共に、アランソン市にテレジアの養育せられし邸宅に住居し、千九百十七年七月十九日立派なる最後を遂げ、爾後夫人のみ獨棲せるが、テレジアの生れ又母の死亡せし室を訪ふ、多くの人々を案内して居ますが、千九百十九年の四月十五日譯者も其處に参りましたが、彼の夫人は良人と共に歸正したことを物語り、今尙續いて新教牧師及信者の歸正するもの多しと物語れり。

薔薇の夕立

其後種々の調査があつて、千九百十一年十二月十二日に其調査委員會(即ち司教の準備調査)の閉會式が行はれた。其時にもテレジアは何にも知らぬ他教區の某神學校の一

生徒に現はれ『明日バエーに於て、司教は私に就て大に祝ふ、私は薔薇の夕立を降らさう』と。

果して此言葉は實行された。其日から薔薇の雨のみではなく、全世界に薔薇の夕立が降つて之を霑ふして居る。其時既に世界各国よりリジュの修院に向けて毎日三百餘通の感謝狀が來て其後追々殖へ。今や彼女の名は全地に知れ亘り、彼女の傳達を乞ふ者にして恩恵を受けない者は殆ど無く、肉身上的苦痛、靈魂上の憂愁皆テレジアの同情を受けて居る。又それ程に苦悲、難痛に遇はぬ人、些細な煩悶に在る人、大した事のない希望まで皆テレジアの傳達によつて或は平和を得、或は慰められ、或は其希望が遂げられるのである。是れ皆テレジアが生前度々經驗して得られた事を今日立派に證明せられるのである。あるまいか、彼女の云はれるには『天主が我等に對して親の如き慈悲を持つて居られるから、我等に就ては唯大事な事柄のみではなく、些細な事、何でもなき事の爲にでも其深き慈悲を垂れて下さる。唯一の條件は我等は主を愛して彼に信頼し、彼に委せるの心がありさへすれば宜いのである』と。

右の如く薔薇の雨はテレジアの死後間斷なく地上に下つて、或は肉身上的苦難を救ひ、或は靈魂上の憂愁を癒やす等、數へ難きは數多あるのである。尙不可思議の事、發現とか香を放つ事等も度々である。先年も某女學校の生徒一同が、八日間も續いて奇妙な馨を嗅ぎ、之が爲に生徒は非常に感動し、中にも不良にして感化すべき必要の者等は皆其後善徳に進むやうになつたのである。

小さきものに對する 慈み

茲に特に注意すべき事は、テレジアは凡ての者に對して其仁慈を垂れられるが、特に『小さき者』を多く寵まれたといふ傾向が見える。此に『小さき者』といふのは、其身分年齢の如何を問はず唯謙遜なる者、貧しき者、弱き者を指して云ふので、無邪氣なる小兒は尙一層特別に愛せられるのは無論の事である。此幼き小兒等の心が奇妙にも其小さき女王テレジアの方に引寄せられて居るといふ事を説明するのは、少し困難しいが、是は多分聖靈の働きで、此清淨潔白の靈魂をテレジアの方に傾けるやう計ひ給ふのであらう。

……。テレジアは屢々幼児に現はれた。之は推測ではなく事實である。彼等幼き小兒等に現はれても、大人に於けるが如き自負心も傲慢心も起らず、危険が少ないからである。先年三歳になる小兒が重き病氣に罹り、最早臨終に迫つて居つたが、一日突然其小兒の顔容が強く光り輝き、側に居つた母親は驚愕の餘り氣絶せんとした程であつた。然し奇妙にも其小兒は急に全快し、其翌日母親に向つてテレジアの繪を見せ、昨日此方が私の許に來られた」と。

今一人ボーロと名づく同年の小兒は、骨の結核症に罹り、非常に苦んで居つたが、此小兒の話によれば小ききテレジアが現れて『坊ちゃん病氣を治して上げやう』と云はれた。そして其時テレジアの頭部の周圍に、小きき光が多數あつたと、其後間もなく此小兒の病氣は快くなつた。

今一人の小兒は「私は天國の美しい有様を見た。そして幼き耶蘇のテレジアが天主の御側に居られるのを見た」と。他の小兒は「テレジアが頭に女王の如き冠をかむり金の星章で飾つてある外套を纏うて現れた」と。

亦小兒の中まだ話も出来ない程の幼児さへ、テレジアの繪を貰うて涙を流す者もあり其繪を自分の枕許に置かなければ寢に就かない者もある。また誰にも教へられないのにテレジアの繪に接吻する者があり或は其繪の周圍に花を置く者もある。尙生後五ヶ月にしか成らぬ一嬰兒は、其枕邊に置いてあつたテレジアの小きき遺物を手に執り、之に接吻した事もあつた。

幼児等に就てのテレジアの奇蹟は殆ど數へる事の出来ない程多く有る。そして是等幼兒等はまだ此世界の事を識らない前に、我等よりも能く超自然の事を悟つて居る。是は全く「心の潔き者は幸なるかな、彼等は神を見奉るべければなり」との聖言の立證ではあるまいか。

司祭達に對しての慈み

又幼き耶蘇のテレジアは特に司祭等に多くの恩恵を垂れて居られる、蓋は司祭等は多くの靈魂を受持つて居るから、テレジアは其手を藉つて信者等に自分の歩んだ道を教へ、天主に對する愛と信頼心を起させんが爲である。

部内の堂聖の院修ルメルカ



歐洲大戰中軍人等に對する蓋被の雨

歐洲大戰中、軍人等は小きテレジアの傳達により、其恩寵を願ふたことが多くあり
ます、それで塹壕の保護者とか、不思議な小き童貞とか、第二の守護の天使など、尊
敬して居ました、それは聯合國軍隊計りでなく、敵國軍人も矢張尊敬して居たのであり
ます、多くのものが改心し、不思議に危険を脱し、或はテレジアの顯れによりて、死よ
り脱れて助かつたものがあつたといふて居るものが多くありました、リジュのカルメル
修道院の聖堂内に數知れの程勳章が捧げてありますのは、皆兵士が紀念として、其助か
りを受けましたのを、感謝して捧げたのであります。

其等の重なる事柄が、立派な大冊の書物となつてあります、又小きテレジアに對し
信心を顯はしますには重なる各國の國旗をリジュ市に送り、其國々から、テレジアの傳
達を願ふ目的でありました、又世界各国から多くの軍人等より早く福者の位に列する様
にと願書を敎皇の下に差出した譯であります、就中英國アイルランドの國より、其願
書に、十六萬人の記名した願書を出したのであります、それにも、如何小きテレジ

アが、恩寵を蒙らしたといふことが顯はれませう。

前に書き記しました通りリジユ教區の司教はテレジアに就ての詳細の取調べを爲し、其書類を千九百十二年二月に羅馬に送つた。禮部聖省は慎重に之に就て取調を爲し、數回の會議を經テレジアの言行並に其記録は一も教理に背きしもの、無き事を確め、千九百十四年六月九日禮部聖省の樞機官の意見の一致によりピオ第十世教皇陛下が小さきテレジアを福者の位に列する爲に、規定に基き調査著手の許可あり、其日より直接に教皇の管理に屬すること、なりました。

千九百十五年教皇の命により、バユー市の司教レモニエ其調査の委員長となる。

千九百十七年八月十日遺骸第二の發掘調査。

同年十月三十日バユー天主堂に於て千九百十五年に著手せし調査の終了。

千九百二十年六月一日禮部聖省の豫備會議。

千九百二十一年一月廿五日準備會議。

同年八月二日教皇御前會議。

千九百二十一年八月十四日卓絶せる德行につきての省令發布（尊者と名けられる）。

ローマにて奇蹟に就て次の三回の會議がありました。

千九百二十二年三月七日豫備會議。

同年七月廿五日準備會議。

千九百二十三年二月十一日教皇御前會議。

千九百二十三年三月十九日凡ての調査完了につき、諡福式に著手すべきことに就ての教書。

序に云ふ、公教會に於ては、生前德行の顯著なる者に對し、之に愈々「福者」の尊號を諡る可きや否やを決定する以前には、極めて慎重に嚴密に調査を遂げるのであつて、參考の爲に蒐集したる書籍類等は甚だ夥しいもので、又其の調査の期間も長年に亘るのである。其調査の結果を悉く印刷に附したならば、其れこそ大變な容積となるのである。先年プロテスタンの地位ある人物が、羅馬に往き、其調査の記録を閱覽することを願ひ、許可されて之を見、甚く感嘆し、此の一事が動機となつて彼は遂に公教會に歸

正するに至つたと云ふくらゐである。

同年三月廿六日小さきテレジアの遺骸を墓地より、リジユのカルメル修院の聖堂に終めました。其當時の状況は、各種階級の者約四萬人相會し、就中歐洲大戰出征中、恩寵を受けたる將校兵卒の參列せるもの多數に及び、特に衆目を惹き其異彩を放てるは、米國の軍隊を代表する一隊部でありました。

同年四月廿九日ローマの聖ペテロの大天主堂にて諡福式執行。

抑も如上の諡福式の行はるゝに至るには、其間死後、規定により少くも五十年の歲月を経なければなりません。テレジアが福者に列せられましたには死後まだ二十六年より經過ませぬ、尙其後僅に二年（千九百二十五年五月十七日）諡聖式が行はれました、實に斯如く死後僅なる短日月にしてそれに福者聖者になりましたのは異例です、彼れが如何に優れたる善徳に富て居たことが判明しやう。

修道生活に就て

此「小き花」を熟讀した者は、熱心なる公教信者でなくとも、公平の眼識ある者、少の學識ある者なれば、必ず修道生活の如何なるものかを曉り、修道生活の重すべき事その美しき事、その利益ある事、その必要なる事を曉り得る筈である。

地上の天使とも名づけられる、此幼きイエズスのテレジアの如く、幼き時より家庭の樂を棄て、肉親の者に離れ、進んで世俗を避け、肉身を苦め、克己、謙遜の美德を修めんとて修道院の中に入るは、實に崇高にして偉大なる精神ではなからうか……況んや其目的は利己的ではなく、慈仁深き主の光榮を傷つくる者等の罪を償ひ、彼等に代つて泣き苦み、自己の難行苦業の功績を彼等に頼ち、尙彼等を罰せんとする天主の義怒を宥める爲めなるに於てをやだ。斯の如く耶穌基督を慰め、耶穌基督の苦を偲び、拜禮、恩謝并に愛深き多くの所業を以て、人々の無頓着、忘恩、侮辱を償ふために、自己の身を献げ得る事、嗚呼實に羨望の至りではあるまいか。

往古オーメルといふ有名な希臘詩人は、罪科を償ふ爲めに身を犠牲として神に献ぐる

婦人等を讚美して居つた、又降生前四百年頃、同じ希臘の詩人ウリビードは、自己の家族を救ふ爲にマカリの詩を歌ひ、軍隊の爲にイフゼネを歌ひ、國家の爲にメネセを歌ひ、彼等犠牲者の崇高なる事、清淨なる事、自ら進んで志望せる事、そして其犠牲の價値ある事を特に顯して居つた。今日の公教信者は一層此を尊く重んぜねばならぬ。また斯く自ら進み望んで、自由に我身を犠牲に供する靈魂等は天主の聖心に對して偉大の權能を有つて居る事が分る、即ち此福者「小きテレジア」の傳記が是を證明して居る、彼は自己の靈魂に多くの不思議を行ひしのみならず、自己の爲め他人の爲に、天主より夥しき恩寵を受け、それが尙今日迄も引續いて居るのを見れば、斯る犠牲者の爲に彼は最善の辯護者であると言つても、決して過言ではあるまい。

嘗て某司教は「斯る犠牲者は、基督教の布教上緊要缺くべからざる者で、専心祈禱、黙想、苦業に従事する十人の修道者は、二十人の説教者よりも負に優れた効果がある」と叫ばれ、四十年前の思索家論文家なるルイ、ブイヨも「祈禱苦業に身を委ねて國の爲め人の爲に祈るは、最も早く最も効驗ある方法である。此靈妙なる神祕は、公審判の日

に於てのみ知れる」と云はれたが實に然なければならぬ筈である。

ゲー司教は斯く叫ばれた「縦令人々の不正不義が増長し、造物主をして此世界を滅亡せんとすの思念を懐かせるやうになつても、若し誰か一人、苦業を以て甘んじつ、耶蘇基督と共に犠牲となる者があれば、造物主は之が爲に再び此世界に臨むのみならず、再び之を祝し之を樂み、救霊を得べき者等を救ふに努められる」と。また特に主に恵まれしゼルツルド・マリーといふ童貞女は「我は聖人等の方に眼を注ぐと、最早他の者を處罰する事が出来ない」といふ主の聖言を聽かれた。あ、何といふ慈愛深き聖言であらうぞ！斯の如く信仰厚く徳行の優れた者等は、他の者よりも偉大なる價值がある。彼等は高尚な天職を享けて居る、そして此天職には尙も夥しく大なる恩寵が附與せられてある。故に彼等はその尊き天職を忠實に盡すならば、其實は饒にして其報は高價である。彼の希臘のソフオクルは「清くして罪なき一人の靈魂は、千人の爲に償罪を爲す事が出来る」と云ひ、ブルワの聖ペトロも「眞の犠牲者の一時間は、他の者の數年間よりも聖會の爲に有益である」と叫び、尙聖女テレジアも「完徳に達せんと益々努むるは、百萬の靈魂

普通の者よりも主の聖心に適ふ」と斷言し「倘斯る靈魂が皆無であつたならば、此世界は既に終つて居るであらう」と言添へられました。

此等の言に據つても、苦業償罪に身を委ぬるは、常に有益なるのみではなく、其必要缺くべからざる事が充分に認められる。其上福音書にも「祈禱大齋のみによつてなれば放逐することの出来ない或種の惡魔がある」と教へられてある。また天主は至つて正義なる御方であるから、或惡の行爲に對しては善の行爲を求めずには居られない、乃で或者は自己の慾望を充たすならば、之を犠牲とすべき或善行の必要が起る。そして罪なき者が此罪人の爲に代つて、自由に償罪を爲すならば、慈愛深き主は之を嘉してその代償を受けて下さるのである。然し義といふ原則に於て、一點も假借せられぬ主は、其罪人に對しては、此世に於てか或は來世に於てか、是非其償罪を要求せられるのである。が出来得るだけ現世に於て償罪を果させる爲、時々或者に對して或國に對して愛憐を垂れられ、其償罪の終るのを永く待つて下さる事がある。嘗て一聖人は自國が公教會に對して迫害を爲すのを非常に悲み「主よ！我等どうして私等を早く助けて下さらぬか」と

祈り尋ねた所が、主は「此迫害中に、全く己の身を犠牲とする忠實なる信者の數の滿つるのを待つて居る」と仰せられた。是は即ち尙之よりも甚しい苦艱を甘んじつ、自由に献ぐる犠牲者を待つて居られるといふ意である。

噫此日本に於て、今日斯る尊むべき犠牲者の必要はありますまいか、我等は天主に對して、此新進の大帝國の保護を願ひその發達を希ふならば、どうしても多くの償罪を爲さねばならぬ。言ふまでもなく特に此帝國に於て、斯る尊き犠牲を献ぐる多數の者が必要であつて、熱心に苦業償罪を爲し、日々増長する不正不義の負債を償ふ必要がある。それで是非共此日本に於て、福者小さきテレジアが生活して居られたカルメル修院の如きもの、言へば眞の修道生活の必要が起るのであるが不幸にして未だ斯る理想は實現されてない。

北海道天使園修道女院

慈愛深き主の攝理に由り、天主公教會の手によつて、北海道に於て一の修道院が設けられた。此はカルメン會修院に類似したもので『トラビスト天使園』と名づけられ渡島國

天国に上られた聖少女さきレテア



龜田郡上湯の川に在る(男子の爲に『トラビスト修院』と名づけられ、同じく渡島國上磯郡石別村に在る)：此天使園修道女は、今より二十五年前、即ち千八百九十八年初めて佛國より日本に渡來して此地に修院を建て日夜沈黙を守り祈禱、苦業、黙想、償罪に努めて、只管日本國民の救靈の爲に働き、尙同じ修道生活を爲さんとする志願者を招きて教へ導いて居る。

千九百二十三年四月廿九日、日本創設紀念として二十五年の祝典がありました、現在修道女の數は外人十五人、本邦人四十二人、此二十五年間に福者小さきテレジアの徳を慕ひ、立派の臨終を遂げたものが、外人二人、本邦人八人、特に福者小さきテレジアの競争者と名付けられました、ベルクマンズ童貞の如きはテレジア自叙傳を愛讀して此書を暗記の出來るまで讀み返し、ごんな祈禱の書物よりも好み、『あ、テレジアの靈魂の美しさ、その教訓の喜ばしさよ。私もテレジアのやうに愛することが出來なくてどうなりませう。勉めて見ませう。私とても愛の絶頂に達しませんが、寸時の休息も望みません』とて、何にも屈せず、勇ましく、謙遜、信頼、克己、愛徳等、人目に立たぬとは

いへ、最も堅固な徳行の道を進んだ。その手紙にも「あゝ、私の哀れな靈魂は麗しい花園どころではなく、全く人間のあらゆる浅しさの集め所なのでございます。この見窄しい有様に力を落さないやうに致しますにはなか〜『Sussum corda』くらゐでは足りません。然し、最愛なるイエズスに御光榮あれかし。その無限の御慈愛を示し給ふことも聖心の御喜びの原因もこゝにあるのでございます。』「以前は兎角自分の過つ毎に悲みましたが、イエズス様が私の進む道に小さきテレジアをお見せ下すつてからは、右も見ず左も見ず、忌はしい缺點にも頓着せず、只テレジアと共にイエズス様をお愛し申し、愛の競争をすることの外何も知らうとは思ひません。』と申して居りました。彼の童貞は「主を愛し奉る」と申して千九百十五年九月廿四日此世を去られました。

我等は今、公教修道院生活者が、既に此日本に入りし事に就て、深く主に感謝せねばならぬ。そして幼きイエズスのテレジアの傳達を願ひ、斯の如き立派な生活を爲すために主に招かれる者が多数なり、彼等が力の及ぶ限り、テレジアの善徳に倣はんと努むるやう祈らねばならぬ。

明治四十四年九月五日印刷
 大正四年一月一日再版發行
 大正十二年五月八日三版發行
 大正十二年五月十日四版發行
 大正十二年五月三十日五版發行
 大正十二年六月九日六版發行
 大正十二年六月十四日七版發行

大正十二年六月二十九日八版發行
 大正十二年七月十五日九版發行
 大正十四年七月十七日十版發行
 大正十四年八月九日十一版發行
 大正十四年八月十四日十二版發行

定價 布表紙 貳圓五拾錢
 紙表紙 壹圓八拾錢

兵庫縣西之宮市香爐園夙川(阪急停留所西)

譯者兼 發行者 シルベン、ブスケ

大阪府南區西賑町壹番地 浪速印刷株式會社

印刷所 大阪府東區錦屋町十九番地 辰野寅之助

印刷者 辰野寅之助

大阪府西區朝上通一丁目 福音書店

電話土佐堀壹六九番 振替穴版一九二一番
 東京市神田區一ツ橋通十七番地

三才社

發賣所

不許複製

ブスケ師出版書目

Histoire d'une Ame

第十版 小 さ き 花 (聖女小さきラレ
シヤの自叙傳)

定價 布表紙 二圓五十錢
紙表紙 一圓八十錢

La petite Thérèse (pour les enfants)

小 さ き テ レ ジ ャ (子供の爲)

挿圖 百餘圖 定價 上製 二圓五十錢
並製 一圓五十錢

La petite Voie (tableaux allégoriques)

愛 の 山 路

寫真版挿入 三十三圖 定價 五十錢

Poésies de Soeur Thérèse

小 さ き テ レ ジ ャ の 詩

Bernadette (La confidente de l'Immaculée)

ベルナデッタの傳

Vie des Saints

聖 人 物 語

一月 二月 四月の巻
三月 五月 六月 七月の巻
三月の巻 定價各 一圓五十錢
八月の巻 近 刊

兵庫縣西宮市香櫨園夙川
(阪急夙川停留所西)

天主教會

東京市神田區一ツ橋通十六

北海道札幌北一條東六丁目

大阪市四區朝土通二丁目

福 音 社

販 賣 所

終

